

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

1. 事業名称

外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業～「健康に過ごそう！」を合言葉に～

2. 事業の目的

本事業の目的は、日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと、そのために必要となる人材育成や教材作成を実施することである。

国の施策の一環として文化庁が主体となって進めている「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」(以下「カリキュラム案」)が、地域日本語教室で有効に利用されるようになるために、現場での実践に基づいた発信の必要があると考え、当団体は平成23年度、平成24年度と、文化庁委託事業を実施し、より多くのボランティアが「カリキュラム案」を理解し、考察し、各自の現場でその学びを生かせるよう、また、より多くの学習者が「カリキュラム案」を有効活用できるよう、人材育成、日本語教室の設置運営、教材作成などに取り組んだ。しかしながら、現段階ではいまだ地域日本語教室に「カリキュラム案」が浸透しているとは言い難く、実施団体である「さぼうと21」学習支援室の通常活動においてさえも、その有効活用はできていないというのが現状である。

これまでの2年間の取り組みをもとに、地域日本語教室の現状をふまえながら、「現場で使える「カリキュラム案」」「現場で歓迎される「カリキュラム案」」を検討し、取り組んでいきたいと考えている。

①「カリキュラム案」を効果的に組み入れた日本語教室を実施し、実践例をさらに提示していくこと、②「カリキュラム案」を有効に利用できるような教材を整備すること、③「カリキュラム案」が目指す「生活者としての外国人のための日本語教育」について基礎的なスキルを備え、本質的な理解のできるボランティアを育成することを、今年度事業の目的とする。

また、新たな取り組みとして、学習者、ボランティアが共に参加し、日本語力に関係なく共に学びを深めることのできるワークショップを実施する。今回は、そのテーマを学習者ヒアリングでも要望の多かった「医療」とした。

3. 事業内容の概要

1 全体テーマ:「健康に過ごそう！」

学習者からの相談を受ける際に、もっとも深刻で、後回しにもできないものは「病院」「医療」に関係するものである。前回の文化庁委託事業の日本語教室でも、最後のヒアリングの結果、「病気の時の日本語」を学びたいという要望は受講者全員から聞かれた。

そこで、日本語のクラス授業や動画教材作成にあたっては、自身で解決できる程度の病気やケガの場合、持病の場合、救急対応が必要な場合を意識した取り組みを行った。一方、問題がより深刻になれば、通訳の助けは必須であり、中途半端な日本語で対応しようとするのはかえって危険であると考え、まずは「予防」に注目した取り組みとして、学習者とボランティアが共に健康について考えるワークショップを開催し、課題の解決にあたった。

2-1 日本語教室「難民のための参加型初級日本語講座」の実施

平成23年度、平成24年度と実施した日本語教室で評価の高かった「共同作業」(平成23年度は動画撮影)、「学習パートナー」(平成24年度)、「文字学習」(平成23年度、24年度共に)を要として、「動画教材」や「はじめての500語」(当団体作成のビルマ語訳付語彙集)を利用しながら、導入期の日本語授業を実施した。

2-2 ワークショップ「健康に過ごそう！」の実施(上記日本語教室の延長として実施・当団体の学習支援室受講者・ボランティアなど、広く参加者を募る)

皆で共に「健康に過ごす」意識をもち、そのための具体的な方策を学ぶため、「食育」「歯育」「健康診断を受けよう・その1」「健康診断を受けよう・その2」のテーマで取り組みを行った。

3 人材の養成・研修「日本語教室ボランティア パワーアップ講座」の実施

より広い視点から「地域日本語教室」をとらえ直し、同時にその必要や求めに応じた活動のできるスキルの向上を目指し、「スキルアップ講座」と「理解を深める講座」との二本立てで研修を行った。「スキルアップ講座」は対象人数をおさえ、「地域日本語教室における日本語教授のスキル」を習得することを、「理解を深める講座」は、対象人数を40名程度とし、①「生活者としての外国人」についてきちんとした知識を得ること、②各地での具体的な日本語教育支援(外国人支援)を知ること目標に講座を実施した。

4-1 学習教材「生活場面切り取り動画」の作成

「消費活動」、「医療」に関連する部分の動画を新たに作成した。また、これまでに撮影が完了しているユニットについて「テキスト化」を行い、パソコンやネット環境のない教室でも使いやすい教材を作成した。

4-2 学習者・ボランティア向けワークショップ「健康に過ごそう」教材・資料作成

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 8月14日 14:00-17:30	3時間半	さぼうと21	矢崎理恵 奥原淳子 中村陽子 長崎清美 羽毛田恵美 平村和美 藤原理恵 松野志歩	1 自己紹介 2 今回の事業の趣旨等の共有 3 各取り組みの内容と担当の検討	1 これまでの取り組みの成果を生かしつつ、より受益者にとって有用な事業としていくことを確認 2 日本語教室・ワークショップ・人材の養成研修・動画教材作成・紙教材作成の5つの取り組みについて担当を決定 3 各取り組みについて希望や方向性を共有
2	平成25年 8月31日 16:00-18:00	2時間	さぼうと21	矢崎理恵 羽毛田恵美 松野志歩 (ディラン恵子)	1 日本語教室開催について、その趣旨等の共有 2 平成24年度実施の日本語教室について(振り返りと共有) 3 今年度の日本語教室の授業の進め方について	1 昨年度授業担当者を交え、平成24年度の日本語教室の授業の振り返りを行い、学習者の特性や学習スタイルについて共有を図った 2 これまでの取り組みの成果を生かしつつ、より学習者にとって有用な授業はどうあるべきかを検討 3 授業スケジュール、授業の進め方など
3	平成26年 9月17日 17:00-21:00	4時間	さぼうと21	高橋敬子 矢崎理恵 奥原淳子 中村陽子 長崎清美	1 ボランティア向け研修について、その趣旨等の共有 2 研修の形式、依頼する講師、内容、担当者など	1 地域日本語教室で活動するボランティアにとって有益な研修とするため、スキルアップ講座は同じ講師に連続10回の講座を依頼すること、理解を深める講座は現場を知る方々を講師、パネリストとして依頼することを決定 2 具体的な講師候補を決定、以降の進め方、担当者を決定した
4	平成26年 12月13日 18:30-20:30	2時間	さぼうと21	高橋敬子 矢崎理恵 奥原淳子 長崎清美 (嶋田和子)	1 ボランティア向け研修「理解を深める講座編」について、広報活動や内容について	1 講師、パネリストの決定を受け、当日ファシリテーターを務める嶋田氏を交えて、今回の講座の趣旨等を共有、2 講座の内容、パネルディスカッションの進め方について大筋を決定 3 アンケート内容について決定
5	平成25年 12月28日 10:00-12:00	2時間	さぼうと21	高橋敬子 矢崎理恵 羽毛田恵美 (ディラン恵子)	1 日本語教室の授業の進め方について 2 日本語教室、ワークショップのもち方について	1 ちょうど10回の授業と1回のヒアリングを終えた時点のタイミングで、振り返りを行った。受講者の希望を取り入れ、授業の進め方を再度検討、とくにボランティアの協力を仰ぐ授業等について内容を決定 2 評価について意見交換し、振り返りシートを一部修正することとした 3 ワークショップの進め方等を検討、実施日時、講師などを決定した
6	平成26年 1月26日 9:00-10:30	1時間半	さぼうと21	高橋敬子 矢崎理恵 奥原淳子 中村陽子 長崎清美 羽毛田恵美 平村和美 松野志歩	1 各取り組みの進捗の確認 2 以降の取り組みについての意見交換	1 各取り組みの進捗、以降の進め方等について、これまで通りの方向性で問題ないのではないかという点で一致 2 ワークショップ、紙教材については初めての取り組みで戸惑いも多く、とくにその2つの取り組みについて意見交換をし、具体的な内容を決定した
7	平成26年 2月13日 15:00-17:00	2時間	さぼうと21	高橋敬子 奥原淳子 中村陽子 長崎清美 (ブパールマンシュレスタ)	1 ボランティア向け研修「理解を深める講座編」の具体的な内容について	1 講師、パネリストの決定を受け、当日パネリストを務めるブパール氏との打ち合わせを行った後、第1回の「理解を深める講座」の振り返りを行い、第2回の講座の内容、パネルディスカッションの進め方について大筋を決定 2 アンケート内容について決定
*	平成26年 3月21日 ～3月25日			高橋敬子 矢崎理恵 奥原淳子 中村陽子 長崎清美 羽毛田恵美 平村和美 松野志歩	1 各取り組みの振り返り	1 事業終了後、運営委員が集まることのできる時間がなかったため、メール上で各取り組みについての振り返りを行った 2 4月以降、可能であれば各取り組みについての報告の会をもつことを検討 3 どの取り組みについても、非常に有意義であったことが確認された

5. 日本語教室の実施

- (1) 講座名称
難民のための参加型初級日本語講座
- (2) 目的・目標

・生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという意識がもてる)ようになること

・受講者、指導者、ボランティアなど参加者が、対話を通じて相互理解を深め、コミュニケーション力を向上させること

- (3) 対象者 東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない人
- (4) 開催時間数(回数) 2.5 時間/回 (全 21 回) ※ヒアリング1日(2.5時間)を含む
- (5) 使用した教材・リソース
- ・生活場面切り取り動画教材
 - ・『はじめての500語』(さぼうと21作成教材)
 - ・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(さぼうと21作成教材)
 - ・動詞活用音声教材(さぼうと21作成教材)
 - ・その他、担当指導者作成のオリジナル教材等
- (6) 受講者の総数 12 人
(出身・国籍別内訳 ミャンマー12人)

(7) 日本語教室の具体的な内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 10月5日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	8名	ミャン マー (8名)	VII-14 他者との関係を 円滑にする ／人につきあ う	1 自己紹介ができる 2 欠席の電話がかけられる 3 自分の名前が書ける 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(1画のひらがなが読める・書ける)	ディラン恵子	羽毛田恵美
2	平成25年 10月12日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	8名	ミャン マー (8名)	VII-14 他者との関係を 円滑にする ／人につきあ う	1 ふるさと・大切な人・好きなものについて話せる 2 欠席の電話がかけられる 3 誕生日・授業日が言える 4 家族の呼び方が分かる 5 基礎語彙・基礎動詞 6 文字学習(月曜日～日曜日)	ディラン恵子	羽毛田恵美
3	平成25年 10月19日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	9名	ミャン マー (9名)	VII-14 他者との関係を 円滑にする ／人につきあ う	1 一言のコミュニケーションが分かる・言える 2 感情の言葉とその使うタイミングが分かる・言える 3 基礎語彙・基礎動詞 4 文字学習(A:2画のひらがな B:象形文字)	ディラン恵子	羽毛田恵美
4	平成25年 10月26日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	6名 ボラン ティア7 名	ミャン マー (6名)	VII-14 他者との関係を 円滑にする ／人につきあ う	1 日本人とおしゃべりを楽しむ・自分の知りたいことが質問できる 2 身の周りでみかける漢字・サインの意味を尋ねる表現を学ぶ 3 国と日本の身振り・手振りの違いを紹介し合う 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(復習のみ)	ディラン恵子	羽毛田恵美
5	平成25年 11月2日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	8名	ミャン マー (8名)	VIII-15 住民としての マナーを学ぶ	1 ゴミの分け方が分かる 2 ゴミ分別の用語が分かる 3 ゴミの捨て方がわからない時にきくことができる 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(A:あ～そ B:50音読みとディクテーション)	ディラン恵子	羽毛田恵美
★	平成25年 11月9日 13:20- 16:00	2時間 30分	さぼうと21事務所	3名	ミャン マー (3名)	ビルマ語通訳 を介したヒア リング実施	1 日本語教室についての希望の確認 2 日本語学習についての希望の確認 3 動画教材メニューを見ながら、学習を希望するテーマの確認	<聞取担当> 矢崎理恵 (コーディネーター)	<ビルマ語通訳> アウンタンテイ
6	平成25年 11月16日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	8名	ミャン マー (8名)	VIII-16 地域社会に 参加する	1 自治会の活動を知る 2 ラジオ体操のやり方を身につけながら、 3 基礎語彙(自治体の活動の言葉)・基礎動詞 4 文字学習(A:た行～は行 B:促音+作文)	ディラン恵子	羽毛田恵美
7	平成25年 11月23日 13:20- 16:00	2時間 30分	レンタルスペース ゴ布林	3名	ミャン マー (3名)	復習デイ	1 第1回～第5回・第7回の学習の振り返り 2 文字学習(A:ま行・や行 B:促音)	ディラン恵子	—

8	平成25年 11月30日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	9名 ボラン ティア2 名	ミヤ ン マー (9名)	IX-20 余暇を楽しむ	1 1人で楽しめるゲームなどを知る 2 図書館についての情報を知り、利用カード の作り方が分かる 3 基礎語彙・基礎動詞 4 文字学習(A:あ～そ B:50音読みとディク テーション)	ディラン恵子	羽毛田恵美
★	平成25年 12月7日 13:20- 16:00	2時 間 30分	さぼりと21事務 所	3名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (3名)	カチン語通訳 を介したヒア リング実施	1 日本語教室についての希望の確認 2 日本語学習についての希望の確認 3 動画教材メニューを見ながら、学習を希望 するテーマの確認	<聞取担当> 矢崎理恵 (コーディネ ーター)	<カチン語通訳> マゼイナン
9	平成25年 12月14日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	10名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (10名)	IX-2 余暇を楽しむ	1 友人と楽しむ遊びのやり方が分かる 2 レシピを読みながらケーキが作れる 3 日本人の指示を理解して集まり等の準備 ができる 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(A:長音 B:拗音)	ディラン恵子	羽毛田恵美
10	平成25年 12月21日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	12名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (12名)	III-05 消費活動を行 う 異文化を理解 する	1 年末年始の習慣が分かる 2 年賀状が買え、領収書がもらえる 3 年賀状が書ける 4 簡単な物語が読める 5 基礎語彙 6 文字学習(A:平仮名まとめ・拗音 B:カタ カナ ア行～サ行)	ディラン恵子	羽毛田恵美
11	平成25年 1月11日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	9名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (9名)	VIII-14 人とかわる TPOにあった 適当なあいさ つを理解する	1 お正月のあいさつができる 2 話し合いに参加して、自分の希望が述べら れる 3 招待状が書ける 4 お正月の過ごし方が聞ける 5 基礎語彙・基礎動詞 6 文字学習(A:カタカナ導入 B:カタカナ タ 行～ハ行)	ディラン恵子	羽毛田恵美
12	平成25年 1月18日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	9名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (9名)	III-05 消費活動を行 う I-02 安全情報を理 解する	1 日本の食材が買える 2 日本料理の名前と簡単な作り方が分かる 3 レンビーが書ける 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(A:カタカナ ア行～カ行 B:カタ カナ マ行～ン)	ディラン恵子	羽毛田恵美
13	平成25年 1月25日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	6名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (6名)	I-02 災害に備える	1 動画を見て、災害の備えが分かる 2 避難時の重要語彙が聞いてすぐに理解で きる 3 防災袋について具体的に考えられる 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(A:カタカナ サ行 B:町でみか ける大切な漢字)	ディラン恵子	羽毛田恵美
14	平成25年 2月1日 14:30- 17:00	2時 間 30分	池袋防災セン ター	8名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (8名)	I-02 災害に備える	1 目的地に移動する 2 災害時の対応等を体験する	ディラン恵子	羽毛田恵美
15	平成25年 2月8日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	6名 ボラン ティア6 名	ミヤ ン マー (6名)	VII-14 人と付き合う	1 メニューを見て注文できる 2 情報をもらうための質問ができる・防災に ついてよく理解する 3 日本人とのおしゃべりを楽しむことができる 4 自分のもつ情報を相手に分かるように伝え られる 5 基礎語彙	ディラン恵子	羽毛田恵美
16	平成25年 2月15日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	8名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (8名)	I-01 健康・安全に 暮らす	1 症状が簡単な言葉で言える 2 薬の飲み方が分かる 3 病院用語が分かる 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(A:カタカナ タ行～ハ行 B:へ んとつくり①)	ディラン恵子	羽毛田恵美
17	平成25年 2月22日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	8名 ボラン ティア1 名	ミヤ ン マー (8名)	VII-14 人と付き合う VII-15 地域・社会お ルール・マ ナーを守る	1 仕事の言葉が分かる 2 職場などで分からないことが丁寧に質問が できる 3 疑問詞を使って色々な質問をしながら、会 話を楽しむことができる 4 基礎語彙・基礎動詞 5 文字学習(A:カタカナ マ行～ワ行 B:へ んとつくり②)	ディラン恵子	羽毛田恵美

18	平成25年 3月1日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	9名	ミャン マー (9名)	VII-14 総復習	1 (修了式をテーマとして)計画等を話し合う ことができる 2 スピーチが書ける 3 お礼の手紙が書ける 4 基礎語彙	ディラン恵子	—
19	平成25年 3月8日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	9名 ボラン ティア2 名	ミャン マー (9名)	IV-07 総復習	1 電車を利用する 2 駅・車内のアナウンスが聞ける 3 分からないこと(社内アナウンスなど)が質 問できる 4 基礎語彙	ディラン恵子	羽毛田恵美
	13:20- 16:20	3時 間	レンタルスペース ゴ布林(別ス ペース)	9名	ミャン マー (9名)	ビルマ語・カ チン語通訳を 介したヒアリ ング実施	1 日本語教室についての感想や意見 2 日本語教室についての改善点 3 今後の学習プラン	<聞き取り担 当> 矢崎理恵 (コーディネ ーター)	<ビルマ語・カチン語通訳> ラッシーロイサン
20	平成25年 3月15日 13:20- 16:00	2時 間 30分	レンタルスペース ゴ布林	10名 ボラン ティア2 名	ミャン マー (10名)	VII-14 総復習 修了式	1 式典参加のマナーが分かる 2 簡単なスピーチができる 3 別れの挨拶や感謝の言葉が言える 4 計画したセレモニーを協力して進行できる 5 基礎語彙	ディラン恵子	羽毛田恵美

(8) 受講者の募集方法

- ・さぼうと21内でのチラシ作成・配付
- ・さぼうと21ホームページ上での案内
- ・難民支援の関連団体へのメーリングリストを通じての案内
- ・難民集住地域である高田馬場近辺のレストラン、スーパー等でのチラシ配布

(9) 特徴的な授業風景

■ 第4回目 2013年10月26日(土) 13:20-16:00

【担当】指導者:ディラン恵子 指導補助者:羽毛田恵美 ボランティア:松野志歩

【参加者】6名(見学者 1名)

【履修単元】VII 人と関わる (14)他者との関係を円滑にする

VIII 社会の一員となる (15)地域・社会のルール・マナーを守る

- 【目標】1. ボランティアとのおしゃべりを楽しみ、知りたいことを質問する
2. 身の回りでみかける漢字、サインの意味を尋ねる表現を学ぶ
3. ミャンマーと日本の身振り、手振りの違いを紹介し合う。

【内容】

1. 基礎語彙 ひとつ〜とお『〜つ ください。』の口頭練習
2. 基礎動詞 前回の復習・新たに「開ける・閉める・出かける・押す・回す・消す」を絵カードで紹介・意味の確認・簡単なQA・活用口頭練習
3. 「おしゃべりタイム」(さぼうと21のボランティアとのおしゃべり)の準備・プリントを用いて『もう一度お願いします』『ゆっくりお願いします』などの練習
4. 14:05~14:30 さぼうと21訪問:おしゃべりタイム(学習者:自己紹介 ボランティア:学習者の自己紹介情報を記録、その他、学習者が用意した質問について、ボランティアが答えるなど)
5. 教室に戻り、おしゃべりタイムの感想を言う、聞く。『誰と話しましたか?』『〜さんはどんな人でしたか。』など。『はじめての500語』語彙集のP.74にある「性格」からことばを探して答える
6. 身の回りでみかける漢字とマークを集めたプリントを用いて『この漢字は何と読みますか?』『どんな意味ですか?』を練習、身の回りの漢字やマークについての理解を深める
7. 6の流れで、日本とミャンマーの身振り、手振りをお互いに紹介し合う
8. 振り返りシートで今日の授業の振り返り



■ 第14回目 2014年2月1日(土) 14:30~17:00 池袋防災センターにて

【担当】指導者:ディラン恵子 指導補助者:羽毛田恵美 ボランティア:植木千津

【参加者】 8名

【履修单元】 I-02(04・05) 災害に備える

IV-07(08) 自力で脱出する

【目標】1. 災害時の訓練を体験する

2. 目的地に自力で着く

【内容】

1. 14時30分に池袋の防災センターの前に集合。待ち合わせの場所で、先週学習者から要望のあった『必要な日本語』の質問に答えて練習。

2. 「地震の映画」視聴・・・映像で地震についてしっかり学んだ

3. 「煙の体験」・・・煙の中を脱出する練習を。煙の部屋に入るまでのいろいろな注意を通訳が丁寧に通訳してくれた。

4. 「地震の体験」・・・3つのグループに分かれて3段階の地震を体験した。最後のグループは東北地震と同じ震度ということで実に恐ろしい体験であった。

5. 「火事の体験」・・・消火器を使って消火の訓練。実際は体験のように簡単には消えないのでとにかく自分を守ることを優先するよう、逃げるのが大切なことを教えていただきました。通訳がとても丁寧にガイドの方の予想以上だったのか『マンマー語の通訳は長いですね。』と驚いていらした。

* とても真剣な様子で体験でき、とてもよい経験になった。通訳もガイドの方のお話が長くなると『ちょっと待ってください。』とはっきり頼んで大切なことを通訳なさっていてとてもよかった。



(10) 目標の達成状況・成果

●最終回まで受講を続けた受講者に対して行ったアンケート調査(ビルマ語訳あり)とヒアリング(ビルマ語、カチン語の母語通訳あり)結果、振り返りシートでの自己評価結果、指導者、指導補助者、コーディネーターの観察により、達成状況・成果を判断する

まず、本講座の目的として掲げた2点について述べる

1 生活者としての外国人である受講者(難民等)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または行えるという意識がもてる)ようになること

最終アンケートでは「今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役に立ちましたか」の質問に対して、回答者10名中10名全員が肯定的な評価を記している。とくに「とても役に立ちました。受講する前は日本人と交わることは全然できませんでした。が、受講して、それができるようになりました。勇気が生まれました」「仕事場での人間関係がスムーズになってきました」「人が言ったことに対して、返事ができるようになりました」など、日本人とのやりとりがスムーズに行えるようになり、生活の中で多くの時間を過ごす職場での人間関係が良くなったことを高く評価する回答が目立った。母語による中間ヒアリングの段階で、「職場でのやりとりがうまくできない」「指示されても適切に対応できているかどうか分からなくていつも心配だ」などの訴えが多かったことを考えると、受講者の多くがそれぞれに抱えていた不安や問題について、講座修了時にある程度の解決がはかられたと言える。

また、「あなたの日本語力は伸びましたか」の質問に対しても、10名中10名全員が「伸びた」と評価している。

ただ、同時に、振り返りシートの「あなたの目的は達成されましたか」という問いかけに対して「はい」と回答した者はおらず、自らの目標達成のため、さらに努力が必要だという認識を全員がもっている。そうした意識をもてるようになったことも、大きな成果と言える。

2 受講者、指導者、ボランティアなど参加者が、対話を通じて相互理解を深め、コミュニケーション力を向上させること

学習パートナーとしてのボランティアの参加のあり方は、昨年度の反省点でもあり、今年度の課題でもあったが、今回の講座では「ボランティアの役割が明示されていたこと」、「受講者や指導者間の信頼関係が築かれた後にボランティアがクラス参加するようになったこと」、「継続して参加できるボランティアと、一回だけ参加のボランティアに与えられる役割が区別されていたこと」がプラスに働き、受講者同様にボランティア参加者にとっても学ぶことの多い講座であった。継続して参加したボランティアは「共に学ぶ」ことによって、異なる文化に接する面白さだけでなく、指導者や指導補助者の外国人受講者とのやりとりから、そのコミュニケーションの取り方、言葉の使い方などをじっくり観察し、多くを学んでいた。そのことは、ボランティア自身の感想からだけでなく、指導者、コーディネーターの観察からも明らかである。また、今回、多くの受講者から「日本人とのやりとり」について肯定的な評価がなされていたことは、指導者や指導補助者ではない「普通の」日本人と共に教室で学んだことの成果であるとも考えられる。

上記の目標ではないが、「知人、友達が増えて嬉しいです」「皆と仲良くできてとっても嬉しいです」といった、学びを通じて広がった人間関係を喜ぶ声、「もっと復習すればよかった」「ちゃんと自習すればもっとできるようになった」と日本語学習に対して自身の姿勢を反省する声が複数聞かれた。人間関係構築への積極的な姿勢や、日本語学習に対する自律的な考え方も、本講座の大きな成果である。

また、本講座において実施した「振り返りシート」(受講者自らが毎回受講前、受講後、講座受講後に記入)においても、受講者は自身の日本語力の伸びを明記している。振り返りシートについては課題も多いが、最終回のアンケートで自身の「学習ぶり」に対する反省が複数見られたことなどから、受講者の自立学習に少なからず貢献しうる可能性を感じる。今後の課題である。

(11) 改善点について

1 継続して学習に通う人が大半を占める日本語教育支援であることを考慮し、全体のプランの見直しが必要である。とくに「スケジュール」「配布資料」、レベル差への配慮に留意したい。

今回の受講者へのアンケート調査で、前年度までの回答と大きく異なったのは、「教科書があった方がよい」という回答が圧倒的に多かったことである。その理由として「プリントをたくさんもらっても、多すぎてまとまりがつかなくなってしまう」「予習ができない」があげられていた。

ここ数年の経験や各方面での報告などから「生活者である学習者の場合、留学生や日本語学校生とは違って、次の回の参加、継続して最後まで参加できる可能性を期待しない方がよい。その日その時間の学びの充実を図らなければならない」という意識が、主催者側に強くなってしまった面もあったのではないかと反省する。

実際には、仕事の関係や、日々生活に追われる生活の中での時間のやりくりの難しさなどから、いつのまにか欠席を重ねることとなった受講者もいることはいたが、「日本に定住する覚悟を決めた難民等」の場合、当団体が主催する学習支援室においても継続受講者の方が圧倒的に多いことを考えると、「継続して受講する」ことを大前提として、そうした受講者にとってより学習しやすいように、「拠り所となる教科書的な教材」の配付、ある程度のレベル差を克服できる「教材へのローマ字や母語訳の記載」「シラバスの事前提示と随時修正する柔軟な教室展開」、適当なタイミングでの「母語によるヒアリング」などが有効に行われるように講座全体の見直しを行う必要があるかと思われる。

今回、「母語によるグループヒアリング」は有効であった。受講者同士が母語で日本語学習について話し合うことにより、「学びのグループ」としての信頼関係が強くなり、同時に通訳を務める「先輩住民」からの助言を受けることもできた。こうしたヒアリングは、日本語力の高い者が低いものをサポートするきっかけ、日本語力が低いこと＝社会人としての未成熟さではないという気付きを与える。

また、一人ひとりのヒアリングでは「何でも先生が決めたことをやってください」という回答だった者も、他の受講者の話を聞く中で「自分は何が勉強したいのか」「自分に必要な日本語がどのようなものだったのか」を考えるきっかけを与えられていた。

2 学習者の自己評価、指導者、指導補助者の自己評価について、さらに改善の余地がある

今回、昨年度からの課題ということで、受講者向けポートフォリオを試みた。しかしながら、コーディネーター、指導者、指導補助者の中でも具体的なイメージやその意味について共通の理解が見いだせず、本来期待される「評価」の役割を果たしたとは言いがたい。次年度以降、さらに勉強しなおし、その有効な利用を考えていきたい。

指導者、指導補助者については、自己評価実施に至らなかった。

学習内容についての共有や振り返りを行うためには、以前、別の生活者クラスで行っていたが、「学習者(または指導者、指導補助者)が授業内容をブログで記録に残す」ようなやり方も有効ではないかと考える。今後の課題としたい。

(1) 講座名称

難民のための健康ワークショップ

(2) 目的・目標

- ・受講者、指導者、ボランティアなど参加者が、対話を通じて相互理解を深め、コミュニケーション力を向上させること
- ・参加者が健康に留意する意識を高め、無料健康診断を受診するなど具体的な行動をおこすこと

(3) 対象者 東京近郊に在住する難民、ボランティア(主に日本人)

(4) 開催時間数(回数) 1.5 時間/回 (全 1 回) 2 時間/回 (全 3 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・担当指導者作成のオリジナル教材
- ・「わたしの健康カード」(さぼうと21作成)

(6) 受講者の総数 15 人

(出身・国籍別内訳 ミャンマー15人 日本4人 その他1人)

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年 2月8日 11:00-12:30	1時間 30分	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	10名	ミャンマー (7名) 日本(3名)	健康・安全に暮ら す -健康を保つ 「食育」	1 栄養についての理解 2 味噌汁をおにぎりを作りながら、栄養について考える 3 わたしの1日の食事(QAシート)	田辺恵美子 植木千津	渡部洋子 中村陽子
2	平成26年 2月22日 11:00-13:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	17名	ミャンマー (12名) 日本(4名) その他(1 名)	健康・安全に暮ら す -健康を保つ 「歯育」	1 虫歯クイズ 2 歯に悪い食べ方、食べ物は？(ディスカッション) 3 治療より予防講座 4 歯みがき指導 5 30回かんでみよう	大金伸子 原智子 (東京都歯科衛生士会)	松野志保 (ビルマ語通訳) アウンタンテイ
3	平成26年 3月8日 11:00-13:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	12名	ミャンマー (12名)	健康・安全に暮ら す -健康を保つ 「健康に過ごそう ①」	1 体にいいこと、悪いこと、意見交換 2 食生活探点 3 日本の食生活 4 まい健康カードの作成	松野志保	(ビルマ語通訳) アウンタンテイ
4	平成26年 3月15日 11:00-13:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	15名	ミャンマー (13名) 日本(1名) その他(1 名)	健康・安全に暮ら す -健康を保つ 「健康に過ごそう ②」	1 病気になった時の連絡先 2 地域の健康診断情報 3 「健康になろう」講義 4 血圧実測 5 質問タイム(全体・個別)	本山佳代(看護 師・保健師)	松野志保 (ビルマ語通訳) マサンサンアウン

(8) 受講者の募集方法

- ・さばうと21学習支援室内での告知
- ・初級日本語講座受講者への告知

(9) 特徴的な授業風景

■第2回ワークショップ 2014年2月22日(土) 11:00-13:00 認定NPO法人難民を助ける会会議スペースにて

【テーマ】ニコニコ歯の健康

【担当】講師: 大金伸子・原智子(東京都歯科衛生士会)

講義補助者: 松野志歩 ビルマ語通訳: アウンタンテイ

【参加者】17名(ミャンマー12名 日本 4名 その他1名)

【内容】

- むし歯クイズ(Yes-Noクイズ)
 - ・どんなことをするとむし歯になりやすいか
- 歯に悪い食べ方、食べ物は？意見交換
- ・間食をよくする、ダラダラ食べる
- ・エナメル質を溶かす食べ物(糖分)、飲み物(酸性)
- 治療より予防講座
- ・むし歯以外の歯の病気、健康な歯とそうではない歯(歯周病について)
- 歯みがき指導
- ・どんな歯ブラシがいいか
- ・染め出し→磨き残しチェック→歯ブラシの持ち方、当て方、磨き方指導
- 30回噛んでみよう
- ・おにぎりを30回噛んでから食べてみる



■第4回ワークショップ 2014年3月15日(土) 11:00-13:00 認定NPO法人難民を助ける会会議スペースにて

【テーマ】健康に過ごそう2(健康診断を受けよう)

【担当】講師: 本山佳代(看護師、保健師)

講義補助者: 松野志歩 通訳: マサンサンアウン

【参加者】19名(ミャンマー13名、日本1名、その他1名)

【内容】

- 病気になった時の連絡先
 - ・東京都医療機関案内サービス「ひまわり」電話番号
 - ・ネットでの検索の仕方
- 地域(区)の健康診断情報
 - ・はがき&区のホームページ、いくらかかる？
- 健康になろう講座
 - ・どんな病気を知っていますか？

- ・目に見える病気、見えない病気→どうする？治療＆健康診断
- 血圧実測**
 - ・血圧を実際に計ってみる
 - ・高血圧だと、どんなリスク？
- 質問タイム**
 - ・全体で、健康診断前日や当日の留意点を共有
 - ・個別の質問



(10) 目標の達成状況・成果

●各回のワークショップ後に、参加者に対して行ったヒアリングの結果と、講師、講義補助者、コーディネーターの観察により達成状況・成果を判断する。

本講座の目的としてあげた2点について述べる。

1 受講者、指導者、ボランティアなど参加者が、対話を通じて相互理解を深め、コミュニケーション力を向上させること
これについては、ほぼ達成できたと判断する。「健康」というテーマは、国に関係なくどの方にとっても大切なテーマであり、そのテーマ設定自体が、対等な人間関係を作るのに適当であった。

通常行う様々なイベントと比較しても、外国人参加者(通常の日本語教室では被支援者側の学習者)と日本人参加者(通常の活動の中では支援側のボランティア)が専門家の前では同じ「受講者」となり、自然に同じ立場でのやりとりが行われていた点が印象的である。

また、日頃はあまり「生活者としての外国人」と接することのない専門家の方々からは「今回のワークショップを通じて、難民のことや日本で生活する外国人の方々がおおぜいいらっしゃることを知ることができてよかった。自分の専門はどの国の方にとっても同様に重要なものであり、お役にたてて本当にうれしい。皆さん、熱心で日本語も上手で驚いた」という感想をいただいている。

2 参加者が健康に留意する意識を高め、無料健康診断を受けるなど具体的な行動をおこすこと

「健康」に対する意識はかなり高まったのではないと思われる。3月に行われた「学習発表会」の場で、健康に関するテーマをとりあげた方が複数名いた。また、「歯磨き講習はビデオに撮って家族にも見せたかった」「その後、息子と毎日一緒に丁寧に歯みがきをしている」という声が聞かれたり、ワークショップ後も個別に質問を続ける参加者がいたり、そうした事柄に対する意識の高まりが感じられる。

ただ、今回は、手配等に手間取り、実施が2月、3月となってしまったことから、実際に参加者が「区の無料健康診断を受けに行く」というところまでは話が進められなかった。これからも引き続きこのテーマに向き合っていきたい。

(11) 改善点について

今回の「健康」をテーマにしたワークショップは大変好評であった。今回は初めての試みであり、どのような専門家にどうやって連絡をとったらいいのか、内容をどうしたらいいのか、どのような資料を用意するのがいいのか等、試行錯誤の連続でもあった。

今後、今回の反省を生かし、さらに「健康ワークショップ」の質を高めていきたい。

通訳は必須であると実感しているが、事前の打ち合わせ・準備段階から通訳担当者に関わってもらうことが大事かと思う。外国人住民の目線での内容の検討が可能となり、当日の通訳自体がスムーズに行われることも期待出来る。

また、今回作成した教材については、実際に使ってみる中で、さらに分かり易いものに精度を高めていきたいと考えている。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 日本語ボランティアパワーアップ講座～スキルアップ編～

(2) 目的・目標

日本語指導のための基礎的な知識や技能を習得し、「カリキュラム案」のみならず、生活者のための日本語教育のあり方を広く深く学ぶこと。

(3) 対象者 地域日本語教室でボランティアとして活動している人、または活動に関心がある人

(4) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・講師作成のオリジナル教材
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック』(文化審議会国語分科会)
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』(文化審議会国語分科会)
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』(文化審議会国語分科会)

(6) 受講者の総数 24 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 日本人 24人)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 11月2日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (東京都品川区 上大崎2-11-10 FUJIWARA BLDG5階)	21人	日本人 (21人)	ボランティア VS 日本語 教師	■自己紹介を兼ね、受講者自身のボランティア経験や現在の状況を情報交換。 ■日本語ボランティアをどうとらえるか。 ■日本語教師との重なりは？＜★ディベート＞。★はカリキュラム案にあるタスクであり、これを実践したことを示す。	山形美保子	(奥原淳子) 長崎清美
2	平成25年 11月16日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (同上)	21人	日本人 (21人)	日本簿文法 これだけは (1)	■日本語文法とは何か？ ■ボランティアの現場でどう文法を扱うか？グループ活動＜★ランキング＞。 ■現場での教え方を紹介。	山形美保子	奥原淳子
3	平成25年 11月30日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (同上)	18人	日本人 (18人)	日本簿文法 これだけは (2)	■前回の振り返り ■ゼロレベルの学習者に何を教えるか？グループ活動。 ■(ゼロレベル～初級)語彙や文型の積み上げの重要性を確認。その際、例文を重ねて提示するのが有効であることを伝える。	山形美保子	奥原淳子
4	平成25年 12月14日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (同上)	15人	日本人 (15人)	学習活動を どう作り上げ る？	■前回の振り返り(初級の始めの学習項目を考える) ■「学習活動」を計画する前に考えるべきこと(学習者のレベル・活動のねらい・ボランティアの意識)は？ ■「学習活動」を計画する際に検討すべきこと(学習者のニーズ・時間)は？ ■「学習活動(施設見学)」をグループで計画する	山形美保子	(奥原淳子) 長崎清美
5	平成25年 12月21日 10:00～ 12:00	3時間	GOBLIN (同上)	16人	日本人 (16人)	例文やモデル 会話の作り 方	■前回の振り返り(グループワーク～施設見学～の報告) ■例文やモデル会話を作る際の留意点は？ ■作る際、どう考えるか？(考え方の流れ＝大枠から小枠へ) ■実際にロールプレイを考える＜★ロールプレイ＞。	山形美保子	藤原理恵
6	平成26年 1月18日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (同上)	10人	日本人 (10人)	文字って どうやって？	■前回の振り返り(グループ作成のモデル会話の紹介) ■文字に関する基本情報を確認する(種類・表記と発音のルール)。 ■文字学習をどう進めるか？ ■漢字系学習者と非漢字系学習者への指導は？	山形美保子	長崎清美
7	平成26年 1月25日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (同上)	12人	日本人 (12人)	話す力って どうやって？	■話す力を考えるにあたり留意すること(レベルや内容)は？ ■形態(独和・対話・グループ)別の話し方の指導は？ ■話す活動の進め方の一例を提示＜★フォトリランゲージ＞。 ■話す力をつけるための支援での注意点は？	山形美保子	奥原淳子 (長崎清美)
8	平成26年 2月8日 10:00～ 12:00	2時間	GOBLIN (同上)	11人	日本人 (11人)	読む力って どうやって？	■読む素材・読み方は？ ■読む活動の流れは？ ■読む活動の際、留意することは？ ■何をどう読んでもらうか？ ■読んだ後、どうするか？ ■活動例(新聞の投書)を示す。	山形美保子	長崎清美

9	平成26年 2月22日 10:00- 12:00	2時 間	GOBLIN (同 上)	16人	日本人 (16人)	聞く力って どうやって？ ■「聞く」という行為は？ ■「聞く」素材を、数量・素材・媒体・スタイルか ら分けてみると？ ■聞き方にはどんなバリエーションがある か？ ■活動例を示す (★ショウ・アンド・テル/シャドウイング)。	山形美保子	奥原淳子 (長崎清美)
10	平成26年 3月8日 10:00- 12:00	2時 間	GOBLIN (同 上)	15人	日本人 (15人)	書く力って どうやって？ ■ボランティア教室における「書く」ことの意味 とは？ ■何を書くか？ ■活動例を示す(「書く」から「話す」、「読む」 「聞く」から「書く」へなど他技能へ展開させる 活動)。 ■受講者の「書く」活動の実践を紹介し合う。	山形美保子	奥原淳子

(8) 受講者の募集方法

- ・さぼうと21内でのチラシ作成・配付
 - ・さぼうと21ホームページでの案内
 - ・当団体の過去の研修受講者へのメールでの案内
- (早々に定員に達したため、他団体のホームページ掲載、メーリングリストでの案内などは実施しなかった)

(9) 特徴的な授業風景

■第2回(平成25年11月16日) 10:00~12:00

【テーマ】日本語文法これだけは(1)

【ねらい】「日本語文法」とは何かを押さえ、そのうえで、ボランティアの現場で文法をどう扱うか検討する。

【進め方】

I. 前回の復習

1. 受講者の背景を共有する

ボランティアの経験年数・ボランティア教室の活動時間や形態・日本語教師とボランティアの違いや重なり・ボランティア教室と学校の教室の違い

2. サイトの紹介(多言語医療問診票の閲覧サイト)

II. 本日のテーマ「日本語文法これだけは(1)」

1. 「日本語文法」とは何か <講義>

「国語と日本語」、「国語の教科書と日本語の教科書」、「母語と母国語」との比較から、「日本語文法」とは何かを確認する

2. ボランティアの現場で文法をどう扱うか <グループ→全体>

(1)グループごとに次の点について情報交換する

①文法を教えているか

②文法用語を教えているか

③ゼロレベルの学習者に何を教えたらいいか

※ランキングの手法を使う(タスクを実際の活動に組み込んで紹介する)

<回答例>

①文法を教えているか

- ・教科書を使う場合はある程度教科書に従って扱う
- ・明示はしないが、文や表現から「文法的」なものをわかってもらう

②文法用語を教えているか

- ・ボランティアにとって共通理解としての文法用語あるいは文法項目は便利
- ・学習者に対しては前面に押し出さないが、結果的に文法的なある種のルールを覚えてもらう

③ゼロレベルの学習者に何を教えたらいいか

- ・あいさつ 自己紹介 数字(カレンダー、時計、値段) 買い物 生活語彙
- ・文法項目(～は～です わたしは～です ～が～です ～てください)

(2)グループで話し合った内容をボードに板書き全体で共有する

3. ボランティア現場での指導例の紹介

4. 次回のための宿題の説明

5. アンケート記入

■第9回(平成26年2月22日) 10:00~12:00

【テーマ】聞く力ってどうやって?

【ねらい】「聞く力」を育てるための支援の方策を検討する。タスクを実践し実際に使えるようになる。

【進め方】

1. 「聞く」とはどういう行為なのか <講義>

- ・インプット活動である
- ・聞き返しが難しいため、音が入ってくると同時に情報処理する必要からトップダウン処理が要求される
- ・非言語要素により情報理解が深まる

2. 「聞く」素材にはどんなものがあるか4つの点から検討 <講義>

- ①声の数量面(モノローグ・ダイアログ・談話)
- ②内容面(講義・講演・解説、お知らせや案内、物語的なもの)
- ③媒体面(生の音声・電話やスピーカーなど・人工的な音声)
- ④スタイル(フォーマルかインフォーマルか・位相・ネイティブかノンネイティブか)

3. どんな「聞き方」があるか <講義>

- ・概要をつかむ聞き方
- ・情報をつかむ聞き方
- ・聞いたことに対して反応を要求される聞き方

4. 活動の実際 <グループ活動>

*「ショウ・アンド・テル」

- ①各自持ってきた写真を見せながら相手に説明する
- ②聞いた人はその内容を別の人に報告する
※「聞く」だけでなく、「話す」ことにつなげる

*「シャドイング」

資料を使って体験する ※『シャドーイング 日本語を話そう 初～中級編』(くろしお出版)

*レベルに合わせた語彙や文型のコントロール手法

「新聞記事をわかりやすく聞き手に伝える」ことをやってみる

5. 聞く素材の紹介

6. 次回のための宿題の説明

7. アンケート記入



(10) 目標の達成状況・成果

①アンケート結果

各回ごとにアンケートを実施し、受講者より評価・意見を聞いた。

1は選択式で、2は1を選択した理由を書いてもらった。以下に、各回の結果と最終回に行った全体を通しての自由記述部分を記す。

1. 全体的に今回の内容はいかがでしたか。

	大変 有意義だった	有意義だった	どちらでもな い	あまり有意義 ではなかった	全く有意義 ではなかった	計
第1回	8	12	0	0	0	20
第2回	8	10	2	0	0	20
第3回	5	12	0	1	0	18
第4回	7	7	0	0	0	14
第5回	8	7	0	0	0	15
第6回	6	5	0	0	0	11
第7回	7	6	0	0	0	13
第8回	8	2	0	0	0	10
第9回	9	3	0	0	0	12
第10回	9	4	0	0	0	13
計	75	68	2	1	0	146
	51.4%	46.6%	1.4%	0.7%	0.0%	100%
10回を通して	10	3	0	0	0	13

2. どのような点からそう思われましたか。(10回を通しての記述)

- ・知りたい！と思うことを学ぶことができたため。学習を行うためのきっかけ(指針)を得ることができた。
- ・毎回2時間があっという間に過ぎました。講師の方以外に一緒に勉強できた皆さんとの出会いも良かったです。

- ・日本語教師としては、どのような工夫ができるのかとても有意義だと思ったから。
- ・自分自身のボランティアをやらせていただくに当たり、自分のモチベーションが上がりました。
- ・講師の方のお話も勿論、参加メンバーとの経験交流を通じて、示唆に富んだアイデアを頂いたので、是非自分の活動に生かしたい。
- ・なかなかこう言うのを使うと便利だという本、ウェブサイト紹介をして下さる先生はいらっしゃらなかった。
- ・全体を通して具体的なヒントが多々あって毎回参考になっていました。今後の活動に是非活かしていきたいと思います。

- ・全ての項目に於いて極めて具体的な例が提示され、すぐにでも利用対応したくなりました。座学というより協同学習も良かった。

・どんなことも活動に役に立ちます。いろいろな体験談も聞けて参考になることが多かったです。
・先生の理論(講義)で各回のテーマの基礎知識を得ることができました。質疑応答で現場の問題を共有しヒントをたくさんいただいたこと、事前に宿題があった点もよかった。ハンドアウトがすぐ見やすく参考になりました。

・様々な団体の活動を知ることができた事。とても参考になった。今までとは違った視点で考えてヒントもたくさんいただいた。

・「文集」のような物を作成しているグループがあった。これから近づきたい。
・パワーup、スキルupと内容が充実、盛り沢山で、受講して本当に良かったです。「ボランティア」でこれほどのレベル、向上心、日本人のすばらしさ実感！ お金をかけない、無理をしないというスタンス、続けることの大切さもわかりました。

本講座の目標は、日本語支援のスキルアップを図ることであった。
アンケートからも、講座は受講者にとって大きな学びの場となり、日本語支援のスキルアップに貢献したと考える。

特に、以下のアンケート自由記述のように、具体的かつ実践的な指導法が有用だったことがうかがえる。

・教材の使い方・見つけ方・作り方の情報がたっぷり入っていて役に立ちました。
・たくさんのヒントになった。Reading Tutorとかレシートを使ったやり方など、大変参考になった。
・身近なものを利用するアイデアなど、実際に使用してみたいと思いました。
また、講座が4～5人のグループ形態で進められたこと、意見交換や情報交換をする活動が多く組み込まれていたことから、それぞれの日本語教室の実情や取り組みを知る機会としても役立った。得た情報は一人一人の財産であると同時に、各現場に持ち帰ることで、支援の場の活性化につながることを期待される。

(11) 改善点について

よりよい講座とするために、2つの点を挙げたい。

1. 出席率に関して

そもそも今回の講座は、顔の見える範囲でじっくり進めることを計画していたため、受講人数を20人程度に抑えてスタートした。その意味でも全部の回に出席することが望まれたが、出席率は50～100%となった。受講期間が5か月に及ぶため、その間には家庭の事情など不測の事態が生じるのは避けられないが、可能な限り欠席を抑えるよう努めたい。今回は2週に1回のような定期的な開催でなかったため、受講者には予定の立てにくいスケジュールであったことも関係したかもしれない。講師や開催場所の都合にもよるが、「定期的な開催」を目指したい。

また、前年度の課題を踏まえて次の点は今回見直した点である。

・開催日を日曜日でなく土曜日にした。昨年度の講座では後半に出席者が減り、その要因の一つを日曜日開催と考えた。受講者にもよるが、土曜日の方が参加しやすい感触であった。
・講座前に講座のリマインドをした。これは受講者からも好評であった。こうした配慮は今後も必要だろう。

2. 募集の際の留意点

募集に際して、講座の各回のテーマははっきりしていたが、同様に、講座の進め方も明示しておくようにしたい。座学なのか参加型なのか、知識注入型なのか問題発見型なのか、あるいは、それらを混合した進め方なのか。学ぶスタイルは個人により異なるものである。事前に進め方を伝えることで、講義開始後の戸惑いは避けられると考える。

今回のように講師一人で進めていく場合は、特に必要だと思われる。

さらに、受講者の日本語教育の経験やニーズなどの情報をもう少し詳しく入手しておくようにしたい。そうすることで講座内容を受講者のニーズに一層近づけることが可能となるし、何より講師の負担が幾分でも軽くなるであろう。

上記改善点を次回にも生かしより充実した事業を展開していきたい。

(1) 講座名称 日本語ボランティアパワーアップ講座～理解を深める講座編～

(2) 目的・目標

「生活者としての外国人」についてそのおかれた環境などについての理解を深めると共に、支援のための様々な取り組みを知る。日頃の自身の活動を振り返ると共に、今後の取り組みについて考察する。

(3) 対象者 地域日本語教室でボランティアとして活動している人、または活動に関心がある人

(4) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 2 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・講師作成のオリジナル教材
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック』
(文化審議会国語分科会)
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』
(文化審議会国語分科会)
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』
(文化審議会国語分科会)

(6) 受講者の総数 46 人

(出身・国籍別内訳 日本人 46人)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 1月26日 11:00- 17:00	5時間	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース (東京都品川区 上大崎2-12-2 ミズホビル3階)	32人	日本人 (32人)	日本語教育 の今、 そしてこれ から	■講演「日本語教育の今、そしてこれから」 ■パネルディスカッション (パネリストの発表) ・中国帰国者の日本語学習支援の例 ・「地球っ子クラブ2000」での取り組み ・駒ヶ根市の日本語学習事業	嶋田和子 安場淳 高柳なな枝 林光洋	奥原淳子 (長崎清美)
2	平成26年 3月1日 11:00- 17:00	5時間	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース (東京都品川区 上大崎2-12-2 ミズホビル3階)	33人	日本人 (33人)	多文化共生 社会 日本の今、 そしてこれ から	■講演「多文化共生社会日本の今、そしてこれから」 ■パネルディスカッション (パネリストの発表) ・帰国者二世として一世代の介護を考える ・私、在日ニッポン人と多文化共生 ・“心もとなさ”に立って一無国籍ということ	田村太郎 佐々木春海 ブパール・マ ン・シュレスタ グエンティ・ホ ンハウ	長崎清美

(8) 受講者の募集方法

- ・さぼうと21内でのチラシ作成・配付
- ・さぼうと21ホームページでの案内
- ・東京日本語ボランティアネットワーク、埼玉日本語ネットワーク、多文化共生教育研究会等のメーリングリストでの案内
- ・日本語教育学会、東京ボランティア・市民活動センター、日本語オンライン等のホームページ上での案内
- ・運営委員が所属する団体等のメーリングリストでの案内

(9) 特徴的な授業風景

■第1回(平成26年1月26日) 11:00～17:00

【テーマ】「日本語教育の今、そしてこれから」

【ねらい】「生活者としての外国人」について知識を得ること、各地での具体的な日本語支援(外国人支援)を知ることを目的とする。変わりつつある日本語教育のありよう、多文化共生社会日本の動きなどをしっかり理解し、「地域日本語教室」をより広い視点からとらえ直すことを目指す。

【進め方】

1. 講演(嶋田氏):「日本語教育の今」をテーマに、地域の日本語に限定せず、留学生、ビジネスなども含めた日本語教育全般、および行政の取り組みなどについてお話しいただいた。

2. パネルディスカッション

2-1. 各パネリストの発表

①中国帰国者の日本語学習支援の例(安場氏)

帰国者の現状、帰国者への学習支援(初期の集中研修、生涯学習支援)、帰国者のライフコース毎の学習支援に向けての課題(高齢者、就労・子育て、三・四世をめぐる課題)

②「地球っ子クラブ2000」での取り組み(高柳氏)

さいたま市の現状、地球っ子クラブ2000の概要(設立の経緯、活動方針、教室のようす)、課題と今後の展望

③駒ヶ根市の日本語学習事業(林氏)

駒ヶ根市の概要、在住外国人の状況、日本語学習事業の沿革、事業紹介(「日本語学習システム」、日本語ボランティア研修)、行政と市民団体との良好な関係構築のために、今後の課題と展望

2-2. 全体討議

各パネリストの発表を受け、フロアからパネリストおよびモデレーターに質問があり、それに答える形で進められた。ディスカッションを通して、「連携」「自治体や行政との関係の構築」「お金」という共通の問題が浮かび上がった。



■第2回(平成26年3月1日) 11:00～17:00

【テーマ】「多文化共生社会日本の今、そしてこれから」

【ねらい】「生活者としての外国人」についてきちんとした知識を得ること、さまざまな外国人の存在や抱える思いを知り、外国人＝「支援を受ける立場」という固定観念を打ち破り、変わりつつある日本語教育のありよう、多文化共生社会日本の動きなどをしっかり理解して、「地域日本語教室」をより広い視点からとらえ直すことを目指す。

【進め方】

1. 講演(田村氏):世界の多文化共生の状況、外国人受け入れに関する日本政府の取り組み、日本における外国人のようすについてお話いただき、現在、外国人住民がどんな課題に直面しているのかを踏まえ、多文化共生をめざして地域でできることは何なのか、どんな視点を持つことが大切なのかをお話いただいた。

2. パネルディスカッション

2-1. 各パネリストの発表

①帰国者二世として一世の介護を考える(佐々木氏)

来日の経緯、来日初期の生活と日本語学習、日本での学校生活、社会人になってから、帰国者一世の介護に携わって、日本社会・共に暮らす人々に期待するもの

②私、在日ネパール人と多文化共生(ブパール氏)

ネパールの概要、在日ネパール人の現状、在日ネパール人児童のための学校作り、在日外国人の課題、多文化共生のためにできること(民間の立場から、自治体の立場から)

③“心もとなさ”に立ってー無国籍ということ(ハウ氏)

現在の活動と経緯(「ここにいていいのか」「受け入れてもらえるか」という不安)、無国籍ということ、言葉ができないということ(両親の話)、これからの希望

2-2. 全体討議

各パネリストの発表を受け、フロアからパネリストおよびモデレーターに質問があり、それに答える形で進められた。ディスカッションを通して、サポートされる立場と恵まれた外国人(外国につながる人)が、日本社会の一員として共に暮らす立場の方たちであることが実感できた。



(10) 目標の達成状況・成果 検証方法も含めて具体的に記載すること。

■第1回(回答数27)

①アンケート結果

◇第一部について

(1)内容は日本語教育の理解を深めるのに役立ちましたか。

大変役立った	役立った	どちらとも言えない	あまり役立たなかった	全く役立たなかった	無回答
20	6	0	0	0	1
74%	22%	0%	0%	0%	4%

主な理由:

- ・日本語教育の概要と現状に関する知識が深まった。
- ・日本語教育、ボランティアの役割をかなり偏って「こういうものだ」と思い込んでいた面があった。
- ・教える現場ごとにニーズが異なることがよくわかった。
- ・さまざまな観点から日本語教育を見つめ直せた。
- ・感動するくらい良かった。発信してその小さな声が集まって国を動かす力になる。それを実感している。

(2)特に関心を持ったこと／役だったことは何ですか。

主な意見:

- ・ボランティア同士の連携の重要性。
- ・多文化共生の視点から見た日本語教育の在り方。
- ・どのように行政を動かすか。
- ・学習者に日本語を「教える」のではなく「考える」場を提供することの重要性。
- ・外国人は日本語指導を受けるものとしか頭になかったが、彼らがデイケアなどのボランティアをする立場にもなれるという新しい視点を得た。

◇第二部について

(1)内容は日本語教育の理解を深めるのに役立ちましたか。

大変役立った	役立った	どちらとも言えない	あまり役立たなかった	全く役立たなかった	無回答
18	7	0	0	0	2
67%	26%	0%	0%	0%	7%

主な理由:

- ・立場の異なる方たちの支援の実態を聞き、今後の参考になった。
- ・学習者の背景に合わせた学習活動を現場の人たちが工夫していることに驚いた。
- ・さまざまな問題がつながっていることを実感できた。
- ・参加者との積極的な意見交換ができた。
- ・行政の立場からのお話を聞くのは初めてでとても充実していた。

(2)特に関心を持ったこと／役だったことは何ですか。

主な意見:

- ・帰国者定着センターのスクーリング制度。
- ・地球っ子クラブの実践内容、特に「子ども」から「親子」に視点が移った経緯。
- ・駒ヶ根市の取り組み。現場から行政に働きかけることの重要さ。
- ・歩みよることの大切さ。
- ・行政を含め、周りの人たちの巻き込む活動。

◇その他全体について:

主な感想や意見

- ・日本語教育をマクロの視点から見ることができてよかった。
- ・昼ごはんを食べながら、参加者の方と意見交換ができてよかった。
- ・各団体、行政の取り組みを全国的に共有できるシステムがあればいいと思う。
- ・今日学んだことを自身の活動の改善に生かしていきたい。
- ・みなさんのお話を聞いて元気をもらいました。

②目標の達成状況・成果

本講座の目的は、日本語教室の今を知り、自分の地域日本語教室での活動を広い視点からとらえ直すことであった。アンケート結果からもわかるように、嶋田氏による日本語教育の今についての講演と、立場の違うパネリストのお話により、変わりつつある日本語教育のありよう、日本の多文化共生社会の動きなどが実感できたようだ。特に、行政の立場からのお話が聞けたのはいい機会となり、自分たちの活動をより広い視点からとらえ直すきっかけとなったようだ。

また、今回の講座では、昼休みの時間を参加者のみなさんと登壇者のみなさんが一緒に過ごした。知らない人同士が机をくっつけ、昼ごはんを食べながらお互いの活動について熱心に話をしたり、参加者の方が登壇者に積極的に話しかける姿があちこちで見られた。この講座への参加によって、新しい連携が生まれるのを目の当たりにし、こうしたネットワーク作りにも本講座が寄与できたのではないかと感じた。

■第2回(回答数30)

①アンケート結果

(1)内容は多文化共生社会を理解するのに役立ちましたか。

大変役立った	役立った	どちらとも言えない	あまり役立たなかった	全く役立たなかった	無回答
21	9	0	0	0	0
70%	30%	0%	0%	0%	0%

主な理由:

- ・統計や数字だけでなく、実際の活動、行動の裏付けがあるので、とても納得した。
- ・多文化共生の実態がわかり、ボランティアの重要性が浮き上がった。
- ・日本語を教える活動が社会貢献につながっていることを実感できた。
- ・知らないことがあることと、まず知ることができた。
- ・世界情勢を知りつつ、地域日本語に携わることの必要性を感じた。

(2)特に関心を持ったこと／役だったことは何ですか。

主な意見:

- ・世界と日本の多文化共生の流れの違い。
- ・外国人対策問題が政権に左右されてしまうこと。
- ・身近なところからでも多文化共生を目指すことの重要性。
- ・義務教育を受けていない子どもがいること。
- ・外国人高齢者の問題。

◇第二部について

(1)内容は多文化共生社会を理解するのに役立ちましたか。

大変役立った	役立った	どちらとも言えない	あまり役立たなかった	全く役立たなかった	無回答
13	5	2	0	0	10
43%	17%	7%	0%	0%	33%

(2)パネリストのお話で、特に関心をもったこと／役立ったこと、感想などをお書きください。

主なもの

※佐々木氏

- ・日中ともに高齢者とのコミュニケーションをとることの難しさ。
- ・定住外国人の高齢化の状況、介護の先にある葬儀や墓の問題。

※ブパール氏

- ・行政は外国人をもっと利用すべきという提案に賛成する。
- ・必要なもの(学校)を自分の手で作り上げたこと。EISJでの日本語教育について聞きたかった。

※ハウ氏

- ・「居場所があること」の重要性。
- ・日本に無国籍の人がいることを知らなかった。

(3)質疑応答・ディスカッションの時間はいかがでしたか。

主な意見

- ・ご本人の発表とは違った角度からの話が聞けてよかった。
- ・日本人側の歩み寄り方について考えさせられた。
- ・テーマが深刻かつ壮大だったので、少し焦点が絞り切れなかったように感じた。
- ・言いにくい内容なのかもしれないが、パネリストからあまり本音が聞けなかった気がした。

◇その他全体について:

主な感想や意見

- ・ほとんどの問題の根源は「無知」ということなんだと実感した。今日の話友人にも話してあげたい。
- ・外国人に限らず、人として老若男女、すべての人と共生することの大切さを感じた。
- ・日本語ボランティア活動へのモチベーションがあがった。
- ・多文化共生社会にとって日本語教師の存在が大きいことがわかった。
- ・オープンに自分のことを話してくださったパネリストの方に感謝したい。

②目標の達成状況・成果

本講座の目的は、さまざまな外国人の存在や抱える思いを知ることで、多文化共生社会の今を理解し、「地域日本語教室」をより広い視点からとらえ直すことであった。アンケート結果からもわかるとおり、第1部の田村氏の講演を通して、世界の多文化共生の流れや日本政府の取り組みについて、田村氏自身の具体的な経験談も助けとなり、よく理解ができたようだ。また、第2部では日本社会の一員として共に生活する3名の方の発表を通して、日本には自分たちの目の前の学習者だけでなく、さまざまな立場の外国につながる方が住んでいることや、外国人が常に支援される立場にいないのではない、ということが実感できたと思う。

(11) 改善点について
よりよい講座にするため、以下の2点を挙げたい。

①登壇者との事前打ち合わせ
第2回目の講座について、講演者、パネリストともに多忙な方が多く、また遠方の方もいらしたことから、事前の連絡がスムーズにいかないことがあった。パネルディスカッションをより多岐にわたるものにするためには、モデレーターの方がパネリストの発表を事前によく知り、登壇者全員がこのパネルがどんな流れで進んでいくのか、大きな流れを頭に描いておく必要があると思う。しかしながら、今回の講座では、そのとりまとめが直前になってしまった。スケジューリングの際には、かなり余裕を見て計画を立て、必要に応じて、こちらから出向くなど積極的な調整が必要であったと思う。

②パネルディスカッションの進め方
パネルディスカッションの進め方はさまざまであるが、第1回目についてはパネリスト同士のやりとり、また第2回目についてはフロアとのやり取りが少し少なかった。第2回目については、「このパネルディスカッションが多文化共生を理解するのに役立ったか」というアンケートの質問に対して、「テーマとして重いので内容を消化しきれておらずどちらとも言えない」と答えた方や、「ディスカッションの際に、何を言っているかわからなかった」という意見もあった。少し頭の中で考える時間が必要なテーマだったので、もう少し意見が言いやすいような質問を事前に準備したり、小グループで話し合う時間を設けるなどの工夫が必要だったのかもしれない。

上記改善点を生かし、今後もより充実した事業を展開していきたい。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 日本語学習導入期用「生活場面切り取り動画」および付属教材の作成
 - (2) 対象 「難民のための参加型初級日本語講座」参加者・地域日本語教室参加者
 - (3) 目的・目標
 - ・「カリキュラム案」活用のための動画教材の付属教材を作成すること
 - ・新たな動画教材を作成すること(とくに「健康に過ごそう」のユニットの学習を多くの日本語教室で実践的に行えるよう、動画教材を完成し、ホームページに掲載すること)
 - (4) 構成・総ページ数
 - ・動画教材全10作品(詳細は以下の表の通り)
 - ・付属教材1 動画教材付属の教材は19本の動画教材に対応する18作品・計36ページ(一部ワークシートあり)(詳細は以下の表の通り)
 - ・付属教材2 「わたしの健康カード」(ビルマ語版・中国語版)A4 8ページ(原稿部分6ページ)
- ※表の中のグレイ部分は平成24年度事業で作成した部分、ブルー部分は平成25年度事業で作成した部分である

社会福祉法人さぽうと21

生活場面切り取り動画・付属教材一覧

2013(平成24)年度

2014(平成25)年度

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業により作成

タイトル	場面	登場人物	長さ	教材		
I 健康・安全に暮らす					担当	
I-1	01健康を保つ 病院編 字幕あり・なし	歯科医での受付・診療・会計・次回予約までの流れ	医師・受付担当・患者	3:49	歯医所で歯を診てもらえる	中村
I-2	01健康を保つ 薬局編 字幕あり・なし	頭痛薬の購入 適当なものを尋ねる	薬剤師・客	1:33	薬局で薬を買うことができる	中村
I-3	01健康を保つ 調剤薬局編 字幕なし	処方箋の提出、調剤薬局へ行き、薬を購入する	薬剤師・患者	2:52	病院に行った後、薬をもらうことができる	中村
I-4	02安全を守る 健康診断編1	健康診断の案内を受け取り、予約の電話をする	男(電話)	1:00		
I-5	02安全を守る 健康診断編2	健康診断を受ける	男・医者・看護師(3名)	5:40		
I-6	02安全を守る 119番	事務所が荒棒に入られ、通報する	男(会社員)	1:36		
I-7	02安全を守る 119番(救急)	子どもが階段から落ちて倒れ、救急に電話する	女(母親)	2:07		
I-8	02安全を守る 119番(消防)	火事を発見して、通報する	男・友人数名	1:13		
III消費活動を行う						
III-1	05サービスを利用する ファミレス編 字幕あり・なし	ファミレスでの入口でのやり取り、注文、会計までの流れ	店員・客	2:18	レストランで注文ができる	藤原
III-2	05サービスを利用する 美容院編 字幕あり・なし	予約、受付、シャンプー、カット、カラー、ブロー、会計、一連の流れ	美容師数名・客	11:08	美容院を予約することができる 美容院で、希望の髪形を伝えることができる	片山

					5	
III-3	05物品購入 衣料品編 字幕あり	衣料品について店員とのやり取り、試着、交換、購入、カード会計までの流れ	店員・客	4:10	試着して、服を買うことができる	藤原
III-4	05物品購入 コンビニ編 字幕あり	商品の有無、場所等を尋ねる	店員・客	1:18	—	—
III-5	05物品購入 楽器編	商品を選ぶ、店員と相談する	店員・客	3:27		
III-6	05サービス利用 クリーニング店編	クリーニングを出す・ポイントカードを利用する	店員・客	4:40		
III-7	05物品購入 店探し編	電話で店舗の情報をもらう	女(電話)	1:10		
IV目的地に移動する						
IV-1	07公共交通機関を利用する 電車編 字幕あり	目的地まで、どの電車に乗るかを尋ねる、スイカをかざす	女・通行人	1:03	路線や電車を聞くことができる	藤原
IV-2	07公共交通機関を利用する 電車編 字幕あり	乗り換える駅までの道を尋ねる	女・通行人	1:44		
VII人とかわる						
VI-1	14他者との関係を円滑にする 会社編 字幕なし	新入社員が部署内で挨拶する	会社役員・社員数名・新入社員	0:56	会社で最初の挨拶ができる	松野
VI-2	14他者との関係を円滑にする 会社編 字幕なし	会社員同士が名刺交換をする	会社員2名	0:26	名刺を交換できる	松野
VI-3	14他者との関係を円滑にする 飲み会編 字幕なし	新入社員が歓迎会での挨拶をする	会社役員・社員数名・新入社員	1:10	歓迎会で挨拶ができる	松野
VI-4	14他者との関係を円滑にする 飲み会編 字幕あり	社員同士の飲み会の席で最初にコミュニケーションを図る	同じ会社の社員2名	0:50	居酒屋で会社の人と楽しく交流できる	松野
VI-5	14他者との関係を円滑にする アルバイト編 字幕なし	初めてのアルバイト先で挨拶する	店長・新人アルバイト	0:23	新しいアルバイト先で挨拶ができる	中村
VI-6	14他者との関係を円滑にする 電話編 字幕なし	子供の学校に欠席連絡を入れる	母親・担任教師	1:19	子どもの学校に電話をかけることができる	羽毛田
VI-7	14他者との関係を円滑にする 挨拶編 字幕なし	同じアパートの住人同士が挨拶する	アパートの住人2名	0:31	いつもの挨拶ができる	羽毛田
VI-8	14他者との関係を円滑にする 挨拶編 字幕なし	転居先で、アパートの管理人へ挨拶する	管理人・住人	0:31	引越しの挨拶ができる	羽毛田
VI-9	14他者との関係を円滑にする 引越し挨拶編 字幕なし	転居先で、隣人へ挨拶する	同じアパートの住人2名	1:24		
VI-10	14他者との関係を円滑にする →うれしい、やさしい言葉編	その一言でちょっとうれしく、やさしくなる生活場面あれこれ	大人数名	1:26		
VI-11	14他者との関係を円滑にする →今、いいですか？編	「今、いいですか？」の生活場面あれこれ	大人数名	1:38		
VIII社会の一員となる						
VII-1	15住民としての手続きをする 区役所編 字幕あり	住民票を取る、請求書を書く、会計までの流れ	区役所員・男	2:42	役所で手続きをすることができる(住民票をとる)	片山
VII-2	15住民としてのマナーを守る ゴミ分別編 字幕なし	ゴミの分別を管理人に尋ねる 分別しないで出す、注意を受ける	管理人 住人2名	2:11	ゴミの分別の仕方を聞くことができる	片山

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 9月14日 18:30-21:30	3時間	さばうと21	矢崎理恵 中村陽子 羽毛田恵美 平村和美 藤原理恵 松野志歩	1 作成する動画教材の取り分け項目の検討 2 紙教材の作成方針、内容等の意見交換	・取り上げ項目全10項目の決定 ・紙教材については、全体共通の様式を作成する担当を決め、その後、作業を進めることを決定 ・ワークシートとして「わたしの健康カード」を作成することを決定
2	平成26年 2月22日 18:30-23:00	4時間 半	さばうと21	矢崎理恵 片山杏子 中村陽子 羽毛田恵美 松野志歩	1 作成途中の紙教材を持ち寄り、意見交換	・紙教材修正のための基本方針について具体的に確認

(6) 使い方

- ・動画教材については、素材的な要素が大きいことから、実際に何かの行為(たとえば「区役所へ行く」)を行う前に利用することも可能であるし、行為を行った後に振り返りのために利用することも可能である
- ・付属の紙教材については、動画を見ながら授業を進めるための教師マニュアルとしても利用可能であり、また、パソコン環境、ネット環境のない教室等で、生活上の行為の達成を目指してボランティアと共に学ぶことに可能である。「対話」への発展も可能な教材として考えている。
- ・ワークシート「わたしの健康カード」は、とくに個別の日本語教育支援の場で利用可能な素材であるが、翻訳があることから、一人でもある程度の回答が可能である。

(7) 具体的な活用例

【調剤薬局】＊学習者1名以上・ボランティア1名以上・1時間半～2時間・動画・付属教材・ワークシートを利用

- ①教室で一度動画を最後まで流す・今日の学習テーマについてのイメージをもつ
 - ②付属教材「話しましょう！」を用いて、日本人ボランティアと話を進めながら、使われる語彙や表現を学んでいく
 - ③付属教材「チャレンジ」を用いて、実際に付属教材にある「申請書様式」への記入を試みる
「住所」や「氏名」など、ひらがなでも漢字でも、場合によってはローマ字でもいいので、期待された事項が記入できることを目標とする
 - ④実際の「行動」を参加者がシミュレーションしてみて、さらに予めできるようになっていた方がいいことは何かを考えてみる
 - ⑤ロールプレイ等で、「調剤薬局で薬を買う」行為の達成を目指して練習する
 - ⑥付属教材「練習しましょう！」を用いて、薬袋の読み取りを学ぶ
 - ⑦再度、教室において、動画を見ながら振り返りを行う。その際には、実際に自分の練習の中で困ったことを話したり、想定外の出来事を語ったりすることが可能である。
- ※ボランティアは、実際に薬局に同行して行為の達成を手助けすることも可能かもしれないが、いずれにせよ、「2回目は支援者なしで一人で同様の行為が達成できる」ことが、生活者にとっては非常に重要であり、それを念頭においた日本語支援を行う必要があると考えている。

(8) 成果物の添付

- 1 動画教材(データ送信)
- 2 付属教材(画像等が多く、レイアウトが崩れやすいことからEXCELをPDFに変換してデータ送信)
- 3 わたしの健康カード(ビルマ語フォントが文字化けしてしまうため、PDFにてデータ送信)

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

本事業の目的は、日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと、そのために必要となる人材育成や教材作成を実施することである。

国の施策の一環として文化庁が主体となって進めている「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」(以下「カリキュラム案」)が、地域日本語教室で有効に利用されるようになるために、現場での実践に基づいた発信の必要があると考え、当団体は平成23年度、平成24年度と、文化庁委託事業を実施し、より多くのボランティアが「カリキュラム案」を理解し、考察し、各自の現場でその学びを生かせるよう、また、より多くの学習者が「カリキュラム案」を有効活用できるよう、人材育成、日本語教室の設置運営、教材作成などに取り組んだ。しかしながら、現段階ではいまだ地域日本語教室に「カリキュラム案」が浸透しているとは言い難く、実施団体である「さぼうと21」学習支援室の通常活動においてさえも、その有効活用はできていないというのが現状である。

これまでの2年間の取り組みをもとに、地域日本語教室の現状をふまえながら、「現場で使える「カリキュラム案」」「現場で歓迎される「カリキュラム案」」を検討し、取り組んでいきたいと考えている。

- ①「カリキュラム案」を効果的に組み入れた日本語教室を実施し、実践例をさらに提示していくこと、②「カリキュラム案」を有効に利用できるように教材を整備すること、③「カリキュラム案」が目指す「生活者としての外国人のための日本語教育」について基礎的なスキルと本質的な理解のできるボランティアを育成することを、今年度事業の目的とする。

また、新たな取り組みとして、学習者、ボランティアが共に参加し、日本語力に関係なく共に学びを深めることのできるワークショップを実施する。今回は、そのテーマを学習者ヒアリングでも要望の多かった「医療」とした。

- (2) 目標の達成状況・事業の成果
(1) に示した項目について、その成果を検討する

まず、平成23年度以来掲げてきた大目標、「日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと、そのために必要となる人材育成や教材作成を実施すること」については、各取り組みで行ったアンケート調査、ヒアリングなどから、平成25年度の事業でようやくカリキュラム案と日本語教室の現場をつなげる有効な取り組みの形が見えてきた印象をもつ。

以下、3つの取り組みについて、その成果を検討する。

①「カリキュラム案」を効果的に組み入れた日本語教室を実施し、実践例をさらに提示していく

＊受講者向けに行ったアンケート調査、ヒアリング、指導者、指導補助者、コーディネーターの観察を参考にする

「生活者としての外国人である受講者(難民等)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または行えるという意識がもてる)ようになること」という目的は十分に達成された。

また、日本語力の伸びはもちろんであるが、指導者の適切な教室運営により、外国人住民と日本人住民が互いに理解を深め、心地良いやりとりを進め、「共に成長」していく姿は、今後の地域日本語教室のあり方のよきモデルとなろう。外国人住民、指導者・指導補助者、日本人住民の三者が「日本語教室」という学びの場を作り上げていた。

さらに、「健康」をテーマにして実施したワークショップは、外国人参加者、日本人参加者ともに高く評価していた。課題は大いにあるものの、「生活者としての外国人」にとって有意義な「教室」であり、一つの教室の形の提示として高く評価できる。

②「カリキュラム案」を有効に利用できるような教材の整備

＊受講者、利用者へのヒアリングを参考にする

「動画教材」については、すでに平成24年度に作成を開始しており、多方面から好意的な評価をいただいている。今回は昨年度撮影先がみつからず、作成できなかった「病気」「救急」「火事」「盗難」等、健康や災害に関する部分の動画が完成し、さらに動画教材が広く利用されることとなった。

また、パソコン環境のない教室も多いことや、初めてボランティア活動に参加して「日本語教育支援」に戸惑いの大きいボランティアも数多くいるであろうことから、昨年度作成済の動画の付属教材として、紙の教材を作成した。作成過程で複数名のボランティアに意見をもらったが、「これなら使えそう」「動画は面白いけれど、正直どうやって扱っていいかわからなかった。道しるべのようになると思う」「うちに持ち帰ることのできる「モノ」をほしがる学習者も多いので、喜ばれると思う」と高く評価されている。今後、実際に教室で利用する中で、さらに改善を加えていきたい。

「健康ワークショップ」に関連して作成した「わたしの健康カード」も、それに記入する過程で、様々な気づきがあったようで、とくに外国人参加者から、高い評価を得た。

③「カリキュラム案」が目指す「生活者としての外国人のための日本語教育」について基礎的なスキルと本質的な理解のできるボランティアの育成

＊講座参加者への毎回のアンケート、修了時のアンケートを参考にする

これまで様々な研修を行ってきたが、「スキルアップ」を図る講座と、「理解を深める」ことを目的とする講座とに分けたことで、それぞれの講座が参加者から高い評価をえた。

「理解を深める講座」には日本語教育支援ではない形で外国人支援に関わる方々の参加も多く、広い意味で人材の育成がはかれたのではないかと考える。

講座参加者間に生まれた新たなネットワークも貴重である。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

今年度事業も、全ての取り組みが「カリキュラム案」をもとに実施された。

「日本語教室の実施」はカリキュラム案を授業のベースにおきながら、授業の中での受講者の反応やつぶやき、日々の振り返りシートや母語による中間段階でのヒアリング等のコメントにより、柔軟に学習内容を修正改善し、有意義な日本語教育支援の場となった。

今年度初めて試みた、「健康ワークショップ」は、「健康かつ安全に生活が送れる」「相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようになる」というカリキュラム案の目標達成にも大きく寄与する。

「人材養成・研修」も、「教室」という現場と「カリキュラム案」を結ぶ、有意義なものであった。「スキルアップ編」では、「読むことの指導」や「話すことの指導」をテーマにすえながら、カリキュラム案に紹介のある「ランキング」「ロールプレイ」などを参加者自身が体験するという形で講座が進められ、まさに「カリキュラム案」と正面から向かい合った研修となった。「理解を深める講座編」は「日本語教室で活動していく意義が理解できた」「自分の活動が意味のあるものだと自信がもてた」という感想が聞かれるなど、自身の活動や「生活者としての外国人」について、改めて考える絶好の機会となった。

「学習教材の作成」「動画教材の作成」は「生活上の行為の達成」を分かりやすい形にした「素材」の提供であったが、紙ベースの付属教材を作成したことにより、地域の様々な日本語教室でカリキュラム案を利用する一つの方法を示したものとして評価できるのではないかと考えている。

当団体は30年以上、難民の自立支援を行ってきた団体であり、日々難民の方々の声を聞いている。そのような立場でカリキュラム案に取り組む際に常に気にかかるのは、「生活者としての外国人」の生活を「日々の行為の達成」のみで見てしまいがちになる点である。「より愉快地」「より豊かに」「輝いて」生活していきたいと思う気持ちを誰もが抱き、願っていることを忘れずに、これからもカリキュラム案に向かい合いたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

当団体は、品川区に事務所があるとはいえ、もともと難民を支援する団体として活動をしており、カリキュラム案で教材作成等を始めるまでは、あまり地域の関係者との連携をはかるということではなかった。しかし、「生活場面切取動画」作成の過程で、その原稿作成や撮影のために近隣の方々に様々な助言や助力をお願いする必要が生じてきた。今年度も、消防署や区役所の様々な部署との連携が強まったと感じている。また、様々な医療機関関係者とも動画撮影のために連絡をとることとなり、今後の協力体制が少しずつ築かれている。すでに、健康関係のワークショップ、消防関係の出張授業を次年度実施する方向で話が進んでいる。

また、動画教材の提供や、ボランティア向け研修、日本語教室の実施等の取り組みを通じて、様々な方や団体とのネットワークが広がりつつあることを実感している。このことも大きな成果であると考えている。

(5) 改善点、今後の課題について

今年度、カリキュラム案を活用した事業展開の3年目で、ようやく導入期の日本語教育支援の具体的で実践可能な形が見えてきたことから、今後は、その方向でさらに充実した日本語教育支援のあり方を検討していきたい。今年度事業で今後にも生かしたいと考えている点は以下の通りである。

- 1 「体験型」の日本語教室の実施
- 2 ボランティアの教室参加(教室活動をより多様で豊かにしていけるような役割を担う存在として)
- 2 日本語教室受講生に対する母語でのヒアリング
- 4 より多様なワークショップの開催
- 5 日本語教室内での教材の利用と、それをもとにした教材の改善

一方、当団体の主たる支援対象者である「難民」「中国帰国者」「日系定住者」は日本在住の期間も長期化し、自身も高齢化し、これまで考えたこともなかった新たな課題を抱えつつある。「健康面での心配」を口にする者も多くなった。また、「自分らしい生き方」「心豊かな暮らし」を求める方々も増えている。そうした実情をふまえ、とくにワークショップと教材の改善には力を入れていきたい。ワークショップは資料を充実させ、他の日本語教室でも利用していただけるような教材パックにしていきたい。また、現在作成している動画教材、その付属教材については、導入期の学習者以外に、どのように利用が可能かを検討していきたい。

(6) その他参考資料 アンケート等を本報告書に添付してください。

- 1 日本語教室、ボランティア向け講座(スキルアップ編)、(理解編)のちらし
- 2 ボランティア研修で利用したアンケート用紙
- 3 動画教材・付属教材一覧
- 4 わたしの健康カード(ビルマ語版・中国語版)

なんみん
難民のための初級日本語講座
Japanese Course (Beginner's Level)
for Refugees

**無料
FREE!**

にち じ ねん がついつか ねん がつ にち
日 時: 2013年 10月5日 - 2014年 3月15日

まいしゅうと ようび
毎週土曜日 13:20-16:00

ば しょ めぐろ む
場 所: 目黒 GOBLIN (さぽうと 21 向かい)

Oct. 5th 2013 - Mar. 15th 2014

Every Sat. 13:20-16:00

at Meguro-GOBLIN (near Support21)



Contact Support 21 by Sept. 20, 2013

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3F
Mizuho Bldg. 3F, 2-12-2 Kamiosaki,
Shinagawa-ku, Tokyo 141-0021

TEL: 03-5449-1331 / FAX: 03-5449-1332 / E-mail: info@support21.or.jp

日本語教室ボランティア パワーアップ講座 ～スキルアップ編～

【平成 25 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業】

ここ数年、「生活者としての外国人に対する日本語支援」の必要性が唱えられ、文化庁からは「生活者としての外国人に対する標準的なカリキュラム案」が発表されるなど、地域日本語教室の取り組みについては改めて大きな期待が寄せられています。

今回の「日本語教室ボランティア・パワーアップ講座」は日頃の日本語学習支援のスキルの向上を目指す「スキルアップ編」と、変わりつつある日本語教育のありよう、多文化共生社会日本の動きなどをしっかり学び、考えてみるための「理解を深める講座編」の二本立てで行います。

「スキルアップ編」は、各回2時間、10回にわたってしっかりスキルアップを図ることを目的としておりますので、経験の長短に関係なく日本語学習支援にご興味のある方はぜひご参加ください。

「理解を深める講座」は、より充実した学びの機会とするため、現在内容を検討中です。こちらは日本語学習支援に直接関わっていない方も含め、在住外国人支援に関心のある方であれば、どなたでも興味深くご受講いただけるかと思います。たった2日間ですが、中身の濃い講座とすべく、第1回は嶋田和子さん、第2回は田村太郎さんにご講演とファシリテーターをお引き受けいただいています。ご興味のある方は、お早めにお申し込みください。

【スキルアップ編】

■日 時:土曜日 午前10時～12時

■講 師:山形美保子さん

杉並区ボランティア団体「LTC友の会・阿佐ヶ谷グループ」の副代表としてボランティア歴16年。朝日カルチャーセンター、朝日JTB・交流文化塾、日本語科非常勤講師として外国人のための日本語クラス及び日本語教師養成講座教授法を担当。著書に『日本語の教え方ABC』（アルク）等。「学習者も支援者も楽しい時間を過ごせるように」がモットー。

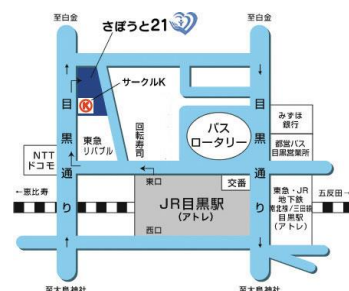
■場 所:GOBLIN（目黒駅より徒歩3分・さぼうと21事務所向かい）

■参加資格:地域日本語教室ボランティア ※全10回ともご参加ください。

■受講料:無料

■定 員:20名（申し込み先着順に受付）

■申込方法:申込書をメール・FAX・郵送のいずれかでご提出ください。



	開催日 (全回土曜日)	各回のテーマ * 内容については一部変更の可能性があります。	通しテーマ
1	11月2日	ボランティア vs 日本語教師	①「標準的なカリキュラム案」にある「タスク」(実体験・施設見学・シミュレーション・プロジェクトワーク・インタビュー/アンケート・プレゼンテーション・ロールプレイ・ランキング・フォトランゲージ・ディベート)、「エクササイズ」(シャドーイング・ジグソー練習・ショーアンドテル・スキミング・スキニング)について、実践的に学びます。 ②参加者同士の実践を共有し、より良い活動につなげていくための方法を考えていきます。
2	11月16日	日本語文法これだけは(1)	
3	11月30日	日本語文法これだけは(2)	
4	12月14日	学習活動をどう作り上げる?	
5	12月21日	例文やモデル会話の作り方	
6	1月18日	文字ってどうやって?	
7	1月25日	話すかってどうやって?	
8	2月8日	読むかってどうやって?	
9	2月22日	聞くかってどうやって?	
10	3月8日	書くかってどうやって?	

【理解を深める講座編】～予告～ *お申し込みは受け付けています。

第1回

■日時：2014年1月26日（日）午前11時～午後5時（間に昼休みあり）

■講師：嶋田和子さん他

■テーマ：「日本語教育の今、そしてこれから」（仮題）

第2回

■日時：2014年3月1日（土）午前11時～午後5時（間に昼休みあり）

■講師：田村太郎さん他

■テーマ：「多文化共生社会日本の今、そしてこれから」（仮題）

■場所：さぼうと21事務所

■参加資格：地域日本語教室等で在住外国人支援に関わっている方々

■受講料：無料

■定員：40名（申し込み先着順に受付）

■申込方法：申込書をメール・FAX・郵送のいずれかでご提出ください。

送付先 FAX番号:03-5449-1332 さぼうと21:〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階

日本語教室ボランティア パワーアップ講座 参加申込書	
【お名前】 ふりがな	【お電話番号】 ※ご連絡が取りやすい番号をお願いいたします。
【ご住所】 〒 ー	
【携帯メールアドレス】 @	【Eメールアドレス】 @
【ご所属（ボランティア教室など）】 名称：	活動地域：
【参加を希望する講座】 * ご希望の講座に○をしてください。 （ ） スキルアップ編 * どうしても出席できない回がありましたら、下記の空欄にその旨お書きください。 （ ） 理解を深める講座編 第1回 （ ） 理解を深める講座編 第2回 * 「理解を深める講座編」は1回だけのご参加も可能です。	
●ご質問等あれば、お書きください。	

※ ご記入いただいた情報は、無断で本研修以外の目的に使用することはありません。

※ 今後、当団体が主催する研修会のご案内やニュースレター等のご送付を希望されますか。（ はい ・ いいえ ）

日本語教室ボランティア パワーアップ講座 ～理解を深める講座編～

共に学び、共に考えてみましょう。

「変わりつつある日本語教育のありよう」「多文化共生社会日本」…

日時:2014 年 1 月 26 日(日) 11 時～17 時

テーマ「日本語教育の今、そしてこれから」

【午前の部】講演 嶋田和子さん（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事）

【午後の部】パネルディスカッション

モデレーター 嶋田 和子さん

パネリスト 高柳 なな枝さん（さいたま市日本語指導員・地球っ子クラブ 2000 代表）
林 光洋さん（駒ヶ根市総務部企画課企画調整係主査）
安場 淳さん（中国帰国者定着促進センター教務部教務第一係長）

日時:2014 年 3 月 1 日(土) 11 時～17 時

テーマ「多文化共生社会日本の今、そしてこれから」

【午前の部】講演 田村 太郎さん（多文化共生センター大阪代表理事）

【午後の部】パネルディスカッション

モデレーター 田村 太郎さん

パネリスト ゲンティ ホンハウさん

（NHK エンタープライズ 制作本部制作企画ディレクター）
佐々木 ^{はるうみ} 春海さん（寿楽ディサービス管理者）
ブパール・マン・シュレスタさん
（エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン 理事長）

★両回とも場所は「さぼうと21」です。

★お申込みは **FAX またはメール** でお願ひします。

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階
（JR/メトロ 目黒駅から徒歩 3 分）



TEL:03-5449-1331 / FAX:03-5449-1332 / kensyu@support21.or.jp

日本語教室ボランティア パワーアップ講座 理解を深める講座編

第1回

■テーマ：「日本語教育の今、そしてこれから」

■講師：嶋田和子さん（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事/元イーストウエスト日本語学校副校長）

大学、日本語学校、地域日本語教室などさまざまな機関で、教師教育、ボランティア養成等に関わっている。学習者の運用能力の向上をめざした日本語教科書『できる日本語 初級』を2011年4月に出版。以後、『できる日本語』の考え方を教育現場に広めることに努めている（2013年10月現在、シリーズは12冊となる）。ACTFL-OPIトレーナーとして、会話教育に力を入れる。他に『目指せ、日本語教師力アップ』など著書多数。

*午前の嶋田和子さんの講演では、「地域」はもちろん、日本語教育全体が今どうなっているのか、現状や今後の動向などを広く見直す時間といたします。午後のパネルディスカッションでは、来日初期の日本語学習支援、その後の中長期の支援を考えていきます。異なる「現場」で外国人住民と向き合って活動을続けるお三方を迎えて、日ごろの活動を振り返りながら、さらなる一歩を踏み出せるディスカッションの場にしていきます。

第2回

■テーマ：「多文化共生社会日本の今、そしてこれから」

■講師：田村太郎さん（多文化共生センター大阪代表理事）

兵庫県伊丹市生まれ。高校卒業後、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南米などを旅する。在日フィリピン人向けレンタルビデオ店で勤務することで、日本で暮らす外国人の課題を知る。1995年1月阪神大震災直後に外国人被災者へ情報を提供する「外国人地震情報センター」の設立に参加。同年10月、「多文化共生センター」への組織変更に伴い事務局長に就任。現在はNPO法人多文化共生センター大阪・代表理事、ダイバーシティ研究所代表、復興庁上席政策調査官（非常勤）など様々なフィールドで活躍している。

*午前の田村太郎さんの講演では、多文化共生社会日本の現状や動きをデータや事例をもとにお話しいただき、今後の課題を含めて、「多文化共生社会日本」をしっかりとらえなおし、考えなおす時間とします。午後のパネルディスカッションのパネリスト3名は、すべて外国につながる方々。当事者の声に耳を傾け、共に考え、参加者一人ひとりの明日の活動につながるような、ディスカッションの場にしていきます。

送付先 FAX番号:03-5449-1332 さぼうと21:〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階

日本語教室ボランティア・パワーアップ講座 参加申込書

【お名前】 ふりがな	【お電話番号】※ご連絡が取りやすい番号をお願いいたします。
【ご住所】〒	
【携帯メールアドレス】 @	【Eメールアドレス】 @
【ご所属】名称：（どのような活動の団体ですか？）	
【参加を希望する講座】*ご希望の講座に○をしてください。 （ ）理解を深める講座編 第1回 「日本語教育の今、そしてこれから」 （ ）理解を深める講座編 第2回 「多文化共生社会日本の今、そしてこれから」	
●ご質問等あれば、お書きください。	

※ ご記入いただいた情報は、無断で本研修以外の目的に使用することはありません。

※ 今後、当団体が主催する研修会のご案内やニュースレター等のご送付を希望されますか。（はい・いいえ）

定住外国出身者のための60時間日本語初級コース 最終アンケート

မှတ်ချက်: အောက်ဖော်ပြပါအတိုင်း ဖြည့်သွင်းရန်။

1. 日本語クラスの時間 (10:00 - 12:00) はどうでしたか。

- ☐ 早かった ⇒ 何時からがいいですか。(時からがいい) () 遅かった ⇒ 何時からがいいですか。(時からがいい) ()
- ☐ ちょうどよかった
- ☐ 遅かった ⇒ 何時からがいいですか。(時からがいい) ()

2. 日本語クラスの頻度 (週に1回) はどうでしたか。

- ☐ もっと多いほうがよかった ⇒ (回ぐらいがいい) ()
- ☐ ちょうどいい
- ☐ もっと少ないほうがよかった ⇒ (回ぐらいがいい) ()

3. 日本語クラスの期間 (月 - 月) はどうでしたか。

- ☐ 短い ☐ ちょうどいい ☐ 長い

4-1. クラスで配布したプリントなどについて、どう思いますか。自由に書いてください。

2. 今回のクラスでは、いわゆる「教科書」はありませんでした。それについてどう思いますか。

5. 授業の中でスクリプト作成とビデオ撮影を行いました。そのタスクは何かあなたのプラスになりましたか。

- ☐ よく分からない ()
- ☐ プラスになった。⇒どんな点でプラスになったかを、具体的に書いてください。
- ☐ とくにプラスにはならなかった。

6. 今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役に立ちましたか。

受講する前と今とを比べて、具体的に書いてください。

7. 今回の日本語クラスを受講して、あなたの日本語力は伸びましたか。

受講する前と今とを比べて、具体的に教えて下さい。

8. 今回の日本語クラスを受講して、あなた自身に何か変化はありましたか。

受講する前と今とを比べて、具体的に書いてください。

9. 今回の日本語クラスは「日本で生活する外国人のための日本語クラス」でした。

将来、またこのようなクラスを行う場合、どうしたら、もっと良いクラスになると思いますか。

10. 受講しての感想を自由に書いてください。

2013 年度 「スキルアップ講座」

1. 全体的に今回の内容はいかがでしたか。○をおつけください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 何かご意見、ご要望等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

2013 年度 「スキルアップ講座」

1. 全体的に今回の内容はいかがでしたか。○をおつけください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 何かご意見、ご要望等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

アンケート

2013 年度 「スキルアップ講座」

今日の講座に関して

1. 全体的に今回の内容はいかがでしたか。○をおつけください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 何かご意見、ご要望等ありましたら、ご自由にお書きください。

10回を通して

1. 全体的に内容はいかがでしたか。○をおつけください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 今後、希望される講座がありましたら、お書きください。また、できましたら理由もお願いします。

4. その他、お気づきの点がございましたら、お書きください。

毎回ご協力くださいまして、ありがとうございました！

【このクラスで勉強したこと】【What did you study this class?】

3月8日 土曜日 名前：

(1) このクラスであなただの目標は達成できましたか？ Did you achieve your goal in this course?

(2) これからどんな日本語を勉強したいですか？ What do you want to learn next?

(3) できますか？ Can you do it?

	できますか？	できますか？
* 文字 Letters	Before	Now
① カタカナで自分の名前が書ける。 I can write my name.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
② ひらがなが読める、書ける。 I can read and write hiragana.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
③ カタカナが読める、書ける。 I can read and write katakana.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
④ 簡単な漢字が読める。 I can read some kanji.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
* 人とつき合う Interacting with people		
① 自己紹介ができる。 I can introduce myself in Japanese.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
② ひとこと会話が言える。 I can say 『Hitokoto Kaiwa』	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
③ 気持ちを表す言葉が言える。 I know how to show my feelings.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
④ 知りたいことが質問できる。 I can ask questions.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
⑤ 日本語でのおしゃべりを楽しむことができる。 I enjoy talking with Japanese people in Japanese.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
* 社会の一員となる Being a member of society		
① ごみの分別ができる。 I know how to divide the trash.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
② 自治会の活動がわかる。 I know about community activities.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
③ 日本の年末年始の習慣を知り、お正月のあいさつができる。 I know New Year's custom and the special greetings.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △
* 余暇を楽しむ Enjoy my free time		
① 日本の遊びやゲームができる。 I know how to play traditional Japanese games.	◎ . ○ . △	◎ . ○ . △

【このクラスで勉強したこと】【What did you study this class?】

3月8日 土曜日 名前：

	Before	できますか？	→	できますか？	Now
②簡単な日本料理が作れる。 I can make simple Japanese food.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
③ミャンマー料理のレシピが書ける。 I can write recipes for Myanmar food.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
* 消費活動をする Go shopping					
①スーパーで日本の食材が買える。 I can buy Japanese food.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
②領収書がもらえる。 I can ask for a receipt.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
③レストランで注文ができる。 I can order food and drink at a restaurant.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
* 交通機関を利用して移動する Going by train or bus					
①自分で目的地へ行ける。I can go to the Disaster Prevention Center by myself.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
②駅のアナウンスがわかる。 I understand announcements at the station.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
* 安全に暮らす Living safely life					
①災害緊急袋について学び、自分の『マイBAG』が作れる。I know how to make my disaster prevention bag.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
②防災センターで防災の備えを経験する。 I know how to prepare for a disaster.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
③薬の飲み方がわかる。 I know how to take medicine.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
④病気の症状が言える。 I can tell my symptoms.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
* その他 In addition					
①仕事の言葉がわかる。 I know words about work.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
②職場で丁寧な言い方、聞き方ができる。 I can talk or ask questions politely at my work.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
③スピーチが書ける。 I can write a short speech.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	
④疑問詞を使って質問しながら会話を豊かにできる。 Using question forms, I can ask questions and enjoy conversation.		◎ . ○ . △		◎ . ○ . △	

コメント Comment：

2013(平成24)年度

2014(平成25)年度

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業により作成

タイトル		場面	登場人物	長さ	紙教材	
Ⅰ健康・安全に暮らす						担当
I-1	01健康を保つ 病院編 字幕あり・なし	歯科医での受付・診察・会計・次回予約までの流れ	医師・受付担当・患者	3:49	歯医者で歯を診てもらすることができる	中村
I-2	01健康を保つ 薬局編 字幕あり・なし	頭痛薬の購入 適当なものを尋ねる	薬剤師・客	1:33	薬局で薬を買うことができる	中村
I-3	01健康を保つ 調剤薬局編 字幕なし	処方箋の提出、調剤薬局へ行き、薬を購入する	薬剤師・患者	2:52	病院に行った後、薬をもらうことができる	中村
I-4	02安全を守る 健康診断編1	健康診断の案内を受け取り、予約の電話をする	男(電話)	1:00		
I-5	02安全を守る 健康診断編2	健康診断を受ける	男・医者・看護師(3名)	5:40		
I-6	02安全を守る 110番	事務所が泥棒に入られ、通報する	男(会社員)	1:36		
I-7	02安全を守る 119番(救急)	子どもが階段から落ちて倒れ、救急に電話する	女(母親)	2:07		
I-8	02安全を守る 119番(消防)	火事を発見して、通報する	男・友人数名	1:13		
Ⅲ消費活動を行う						
Ⅲ-1	05サービスを利用する ファミレス編 字幕あり・なし	ファミレスでの入口でのやり取り、注文、会計までの流れ	店員・客	2:18	レストランで注文ができる	藤原
Ⅲ-2	05サービスを利用する 美容院編 字幕あり・なし	予約、受付、シャンプー、カット、カラー、ブロー、会計、一連の流れ	美容師数名・客	11:08	美容院を予約することができる	片山
					美容院で、希望の髪形を伝えることができる	片山
Ⅲ-3	05物品購入 衣料品編 字幕あり	衣料品について店員とのやり取り、試着、交換、購入、カード会計までの流れ	店員・客	4:10	試着して、服を買うことができる	藤原
Ⅲ-4	05物品購入 コンビニ編 字幕あり	商品の有無、場所等を尋ねる	店員・客	1:18	—	—
Ⅲ-5	05物品購入 楽器編	商品を選ぶ、店員と相談する	店員・客	3:27		
Ⅲ-6	05サービス利用 クリーニング店編	クリーニングを出す・ポイントカードを利用する	店員・客	4:40		
Ⅲ-7	05物品購入 店探し編	電話で店舗の情報をもらう	女(電話)	1:10		
Ⅳ目的地に移動する						
IV-1	07公共交通機関を利用する 電車編 字幕あり	目的地まで、どの電車に乗るかを尋ねる、スイカをかざす	女・通行人	1:03	路線や電車を聞くことができる	藤原
IV-2	07公共交通機関を利用する 電車編 字幕あり	乗り換える駅までの道を探ねる	女・通行人	1:44		
Ⅶ人とかかわる						
Ⅶ-1	14他者との関係を円滑にする 会社編 字幕なし	新入社員が部署内で挨拶する	会社役員・社員数名・新入社員	0:56	会社で最初の挨拶ができる	松野
Ⅶ-2	14他者との関係を円滑にする 会社編 字幕なし	会社員同士が名刺交換をする	会社員2名	0:26	名刺を交換できる	松野

2013(平成24)年度

2014(平成25)年度

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業により作成

VII-3	14他者との関係を円滑にする 飲み会編 字幕なし	新入社員が歓迎会での挨拶する	会社役員・社員数名・新入社員	1:10	歓迎会で挨拶ができる	松野
VII-4	14他者との関係を円滑にする 飲み会編 字幕あり	社員同士の飲み会の席で最初にコミュニケーションを図る	同じ会社の社員2名	0:50	居酒屋で会社の人と楽しく交流できる	松野
VII-5	14他者との関係を円滑にする アルバイト編 字幕なし	初めてのアルバイト先で挨拶する	店長・新人アルバイト	0:23	新しいアルバイト先で挨拶ができる	中村
VII-6	14他者との関係を円滑にする 電話編 字幕なし	子供の学校に欠席連絡を入れる	母親・担任教師	1:19	子どもの学校に電話をかけることができる	羽毛田
VII-7	14他者との関係を円滑にする 挨拶編 字幕なし	同じアパートの住人同士が挨拶する	アパートの住人2名	0:31	いつもの挨拶ができる	羽毛田
VII-8	14他者との関係を円滑にする 挨拶編 字幕なし	転居先で、アパートの管理人へ挨拶する	管理人・住人	0:31	引っ越しの挨拶ができる	羽毛田
VII-9	14他者との関係を円滑にする 引越し挨拶編 字幕なし	転居先で、隣人へ挨拶する	同じアパートの住人で 隣人2名	1:24		
VII-10	14他者との関係を円滑にする →うれしい、やさしい言葉編	その一言でちょっとうれしく、やさしくなる生活場面あれこれ	大人数名	1:26		
VII-11	14他者との関係を円滑にする →今、いいですか？編	「今、いいですか？」の生活場面あれこれ	大人数名	1:38		
Ⅷ社会の一員となる						
VIII-1	15住民としての手続きをする 区役所編 字幕あり	住民票を取る、請求書を書く、会計までの流れ	区役所員・男	2:42	役所で手続きをすることができる(住民票をとる)	片山
VIII-2	15住民としてのマナーを守る ゴミ分別編 字幕なし	ゴミの分別を管理人に尋ねる 分別しないで出す、注意を受ける	管理人 住人2名	2:11	ごみの分別の仕方を聞くことができる	片山